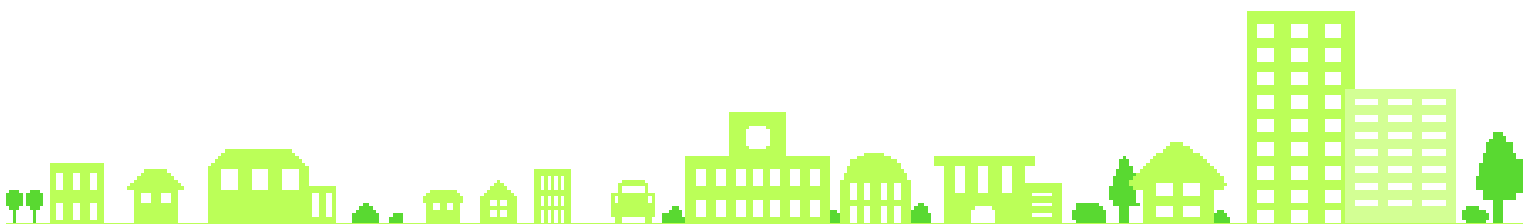


長崎市公共施設マネジメント 緑が丘・淵地区計画



長崎市 令和3年5月
(令和7年12月改訂)

【目次】

1 緑が丘・淵地区の特性	1
2 緑が丘・淵地区の将来推計人口	1
3 緑が丘・淵地区の公共施設配置図	3
4 緑が丘・淵地区の公共施設の情報	5
5 将来の方向性	9
（1）市民利用型施設	10
①スポーツ施設（市民総合プール、市営ラグビー・サッカー場、市営陸上競技場、市営庭球場、市営ソフトボール場、市営弓道場、市民アーチェリー場）	10
②火葬場（もみじ谷葬斎場）	17
③博物館等（科学館）	18
④観光施設（長崎ロープウェイ）	20
⑤平和施設（長崎原爆遺跡旧城山国民学校校舎）	22
⑥コミュニティ活動施設（淵地区ふれあいセンター、緑が丘地区ふれあいセンター、老人憩の家つつじ荘、稲佐地域コミュニティ消防センター、西城山交流センター）	23
⑦学校（稲佐小学校、城山小学校、西城山小学校、西町小学校、淵中学校、緑が丘中学校）	32
⑧放課後児童クラブ（いなさっこクラブ、城山学童クラブ、西町どんぐりいず、若草学童クラブ）	34
⑨子育て関連施設（緑が丘地区子育て支援センター「ピクニック」）	39
（2）都市基盤施設	42
①市営住宅（富士見住宅、城栄住宅、青山住宅、清水住宅、狩股住宅、西町住宅、西町第2住宅、中河内住宅）	42
②市営駐車場（松山町駐車場、平和公園駐車場）	45
（3）公園施設	48
①公園施設（総合公園、近隣公園、街区公園）	48
（4）その他の施設	50
①遊休資産（淵地区ふれあいセンターの余剰スペース）	50
6 地区計画のロードマップ（再掲）	51
参考 市民対話の実施	53

1 緑が丘・淵地区の特性

緑が丘・淵地区は、金比羅山と稲佐山に挟まれて長崎港奥部から北方向に広がる市街地のうち、浦上川河口から2km程度上流域付近までの浦上川西岸部とそこからさらに2km程度北方までのJR長崎本線の西側部、及びこれらの地域から西方向に延びる稲佐山から岩屋山南麓にかけての斜面地でおおよそ構成されています。

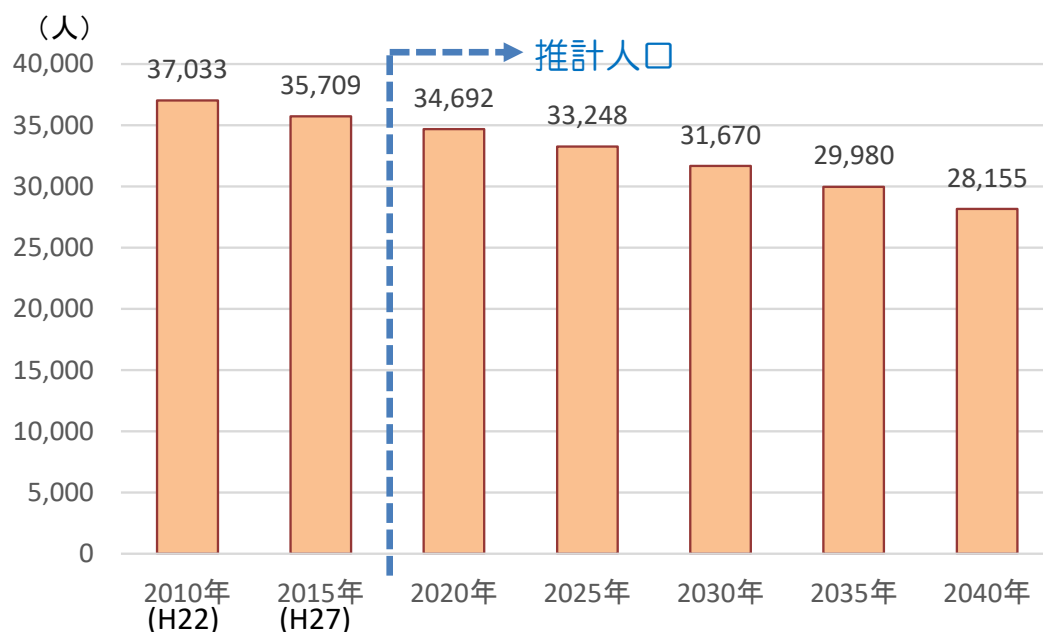
市民レクリエーションの場として親しまれている稲佐山は、良好な自然環境が保全されており、地区内からロープウェイでアクセスできる山頂展望台は、中心市街地を眺めることができる絶好の展望場所として、観光の名所でもあります。麓にある稲佐国際墓地一帯は、長崎が持つ多様な歴史の一面を物語る地域であり、街に潤いを与える貴重な緑地とオープンスペースにもなっています。

またこの地区は、昭和20（1945）年の原子爆弾被災時、爆心地一帯を中心に壊滅的な被害を受けました。戦後は、原爆の犠牲者を慰霊し、併せて世界恒久平和を祈念する平和公園や、市民総合プールや市営ラグビー・サッカー場などの各種スポーツ施設などが整備されるとともに、戦災復興都市計画事業や都市の成長に伴う宅地開発により住宅地が地区内の北部へと広がり、地区西側の丘陵地には計画的な住宅団地も整備されるなど、発展を続けています。

このほか地区の北端部には、長崎大学本部キャンパスに近いことから、長崎大学の留学生向けの施設が立地しており、多くの外国人留学生やその家族が居住する国際色豊かな一面もあります。

2 緑が丘・淵地区の将来推計人口

平成27（2015）年に実施された国勢調査では、緑が丘・淵地区の人口は3万6千人弱でしたが、国の研究機関の将来推計を基にした地区別の推計では、2040年には2万8千人程度に減少すると予測されています。



※ 2015年までは、国勢調査による実績値

※ 2020年以降は、2010年の国勢調査を基礎とした国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口を基に算出

また、今後の緑が丘・淵地区の年齢層別人口構成は、2040 年にかけて次のようになると予測されています。

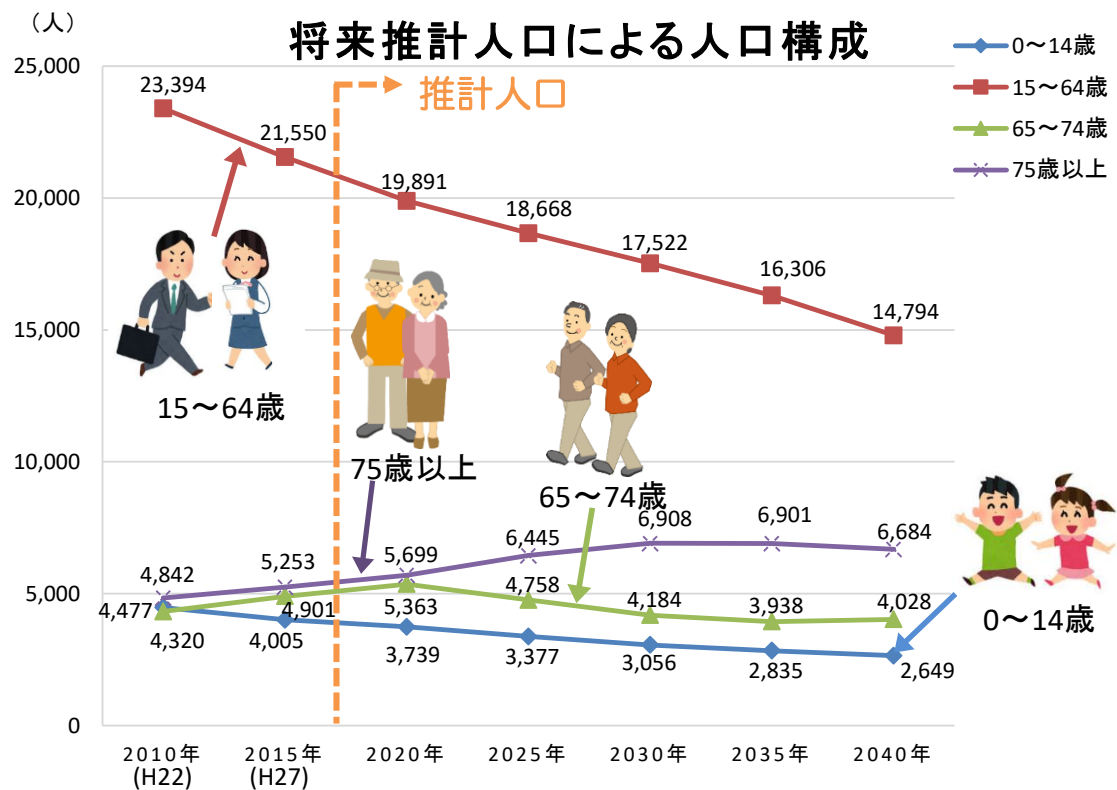
0 歳から 14 歳までの年少人口（青色）は、今後も減少傾向が続くと予測されています。

15 歳から 64 歳までの生産年齢人口（赤色）も、同様に減少傾向が続くと予測されています。

老年人口のうち 65 歳から 74 歳までの層（緑色）は、2020 年までは増加傾向を示しますが、その後は減少に転じると予測されています。

老年人口のうち 75 歳以上の層は（紫色）は、2030 年から 2035 年にかけて増加のピークを迎え、それ以降は減少へと転じるものの、2015 年と比べた場合大きく増加し、15 歳から 64 歳までの生産年齢人口に次ぐ、人口の層になると予測されています。

2040 年には、地区の総人口のうち 65 歳以上（緑色と紫色の合計）が占める割合が全体の約 4 割になると予測されています。

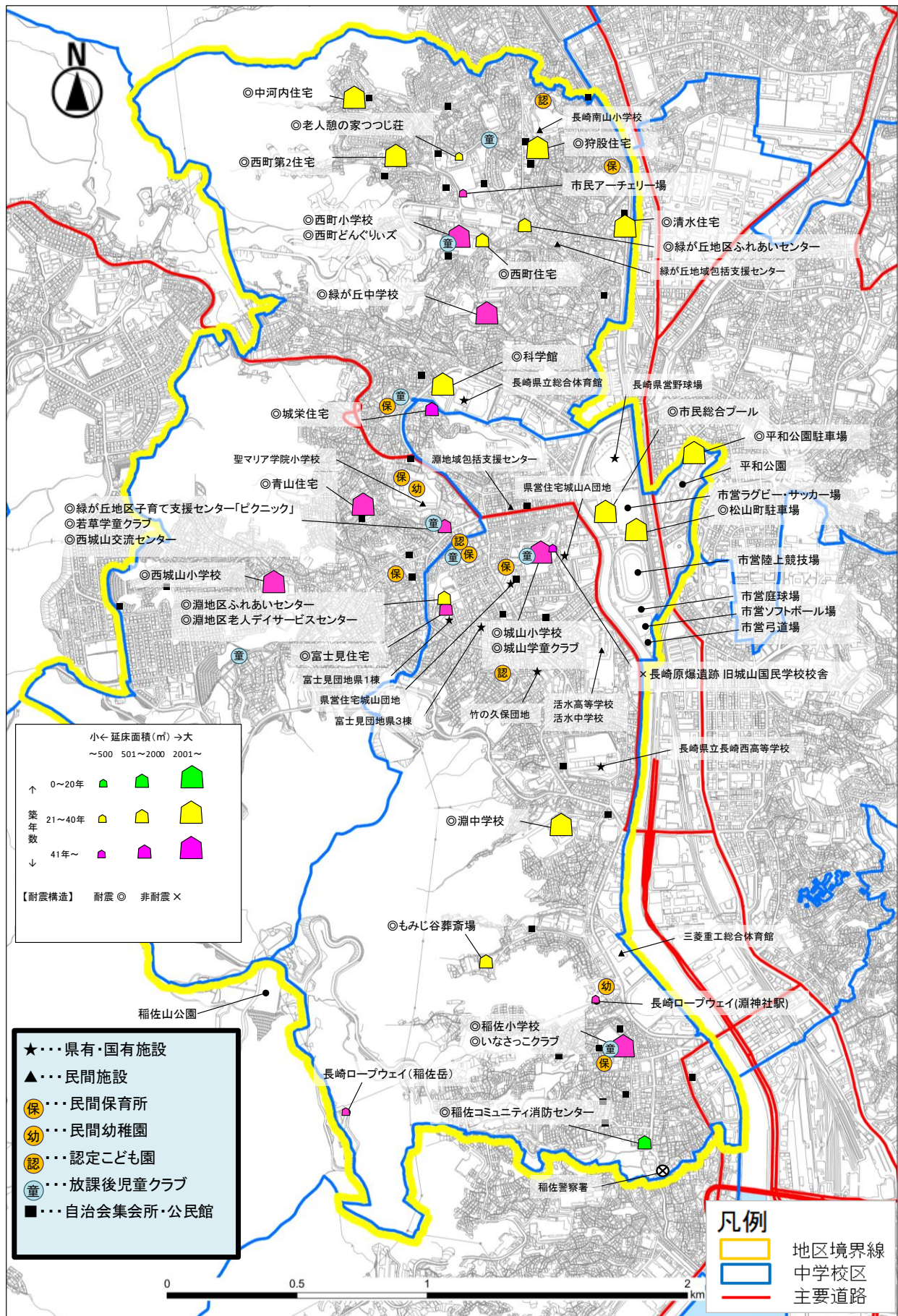


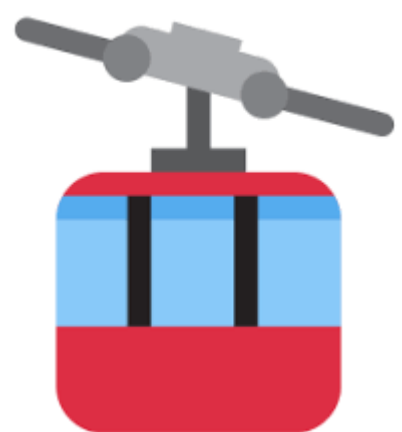
※ 2015 年までは国勢調査による実績値

※ 2020 年以降は、2010 年の国勢調査を基礎とした国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計を基に算出

3 緑が丘・淵地区の公共施設配置図

平成 30 年 12 月 1 日現在





4 緑が丘・淵地区の公共施設の情報

(1) 市民利用型施設

平成 30 年 12 月 1 日現在

サービス 領域	種類	施設の名称	施設の機能	床面積	建築年月 (※1)	経過 年数	避難 所	耐震 性	使っ てい ない 部屋	スロ ープ	多目的 トイレ	エレ ベーター (※2)	H29年度利用状況			施設にかかる費用(※3)		
													日数	貸室の 稼働率	利用者数	H27	H28	H29
市域 全体	スポーツ	市民総合プール	スポーツ	9,885㎡	1996.9	22	-	○	-	○	○	○	310	-	175,222	×	×	×
		市営ラグビー・サッカー場(※4)	スポーツ	20,900㎡ (敷地面積)	1997.10	21	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
		市営陸上競技場(※4)	スポーツ	38,200㎡ (敷地面積)	1953.7 (開設年月)	65	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
		市営庭球場(※4)	スポーツ	6,300㎡ (敷地面積)	1953.7 (開設年月)	65	-	-	-	-	×	-	-	-	-	-	-	-
		市営ソフトボール場(※4)	スポーツ	8,400㎡ (敷地面積)	1968.2 (開設年月)	50	-	-	-	-	×	-	-	-	-	-	-	-
		市営弓道場(※4)	スポーツ	2,900㎡ (敷地面積)	1955.9 (開設年月)	63	-	-	-	×	×	-	-	-	-	-	-	-
		市民アーチェリー場	スポーツ	1,917㎡ (敷地面積)	1973.10	45	-	×	-	○	×	-	292	-	3,102	○	○	×
	火葬場	もみじ谷葬斎場	その他	1,318㎡	1978.12	40	-	○	-	○	○	○	364	-	6,794	-	-	-
	博物館等	科学館	学習 文化	13,299㎡	1996.11	22	-	○	-	○	○	○	304	91.5%	161,754	○	○	○
	観光	長崎ロープウェイ	観光レジャー	1,101㎡	1959.1	59	-	×	-	×	○	○	333	-	201,584	×	○	○
	平和	原爆遺跡旧城山国民学校校舎	観光レジャー 学習	483.7㎡	1937	81	-	×	-	×	×	×	359	-	31,684	-	-	-
地区	コミュニティ	淵地区ふれあいセンター	交流 学習 本の貸出	449㎡	1996.1	22	○	○	-	○	○	○	307	64.6%	22,543	○	○	○
		緑が丘地区ふれあいセンター	交流 学習 本の貸出	556㎡	1989.3	29	○	○	-	○	○	○	308	41.2%	25,578	○	○	○
		老人憩の家つつじ荘	高齢者 交流 入浴	231㎡	1981.3	37	○	○	-	×	×	×	279	67.5%	10,147	○	○	○
		稲佐地域コミュニティ 消防センター	交流	366㎡	2003.2	15	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		西城山交流センター	交流	180㎡	1963.5	55	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	学校	稲佐小学校	教育	5,818㎡	1975.3	43	○	○	-	×	×	×	-	-	253	×	×	×
		城山小学校	教育	5,908㎡	1966.3	52	○	○	-	×	×	×	-	-	497	×	×	×
		西城山小学校	教育	6,389㎡	1957.3	61	○	○	-	○	×	×	-	-	372	○	×	×
		西町小学校	教育	7,263㎡	1956.3	62	○	○	-	○	×	×	-	-	346	(※5) ○	×	○
		淵中学校	教育	7,127㎡	1984.3	34	○	○	-	○	×	×	-	-	442	×	×	×
		緑が丘中学校	教育	8,738㎡	1961.3	57	○	○	-	○	×	×	-	-	293	○	○	○
		緑が丘中学校	教育	8,738㎡	1961.3	57	○	○	-	○	×	×	-	-	293	○	○	○
	放課後 児童 クラブ	いなさっクラブ(稲佐小)	子ども	122㎡	1975.3	43	-	○	-	×	×	-	291	-	972	○	○	○
		城山学童クラブ(城山小)	子ども	130㎡	1966.3	52	-	○	-	×	×	-	267	-	744	-	×	○
		若草学童クラブ(西城山小)	子ども	106㎡	1963.5	55	-	○	-	○	×	-	277	-	792	×	×	×
		西町どんぐりズ(西町小)	子ども	126㎡	1969.3	49	-	○	-	○	×	-	291	-	720	×	×	×
	子育て	緑が丘地区子育て支援センター 「ピクニック」	親子 相談 交流	167㎡	1963.5	55	-	○	-	×	×	-	290	-	9,409	○	○	○

貸室の稼働率を記載している施設の部屋別の稼働率は次のとおりです。

種類	施設の名称	区分	稼働率	平均 稼働率
博物館等	科学館	学習室	91.5%	91.5%
コミュニ ティ	淵地区ふれあいセンター	第1研修室	95.4%	64.6%
		第2研修室	79.4%	
		調理室	19.1%	
	緑が丘地区ふれあいセンター	第1研修室	86.4%	41.2%
		第2研修室	36.7%	
		第3研修室	33.0%	
		調理室	8.9%	
	老人憩の家つつじ荘	大広間	64.9%	67.5%
		小部屋	70.1%	

(2) 都市基盤施設

サービス 圏域	種類	施設の名称	施設の機能	床面積	建築年 (※1)	経過 年数	避難 所	耐震 性	使っ てい ない 部屋	スロ ープ	多目的 トイレ	エレ ベーター (※2)	利用状況			施設にかかる費用(※3)		
													戸数	入居率	入居戸数 ※H30.4	H27	H28	H29
市域 全体	市営住宅	富士見住宅	住まい	1,708㎡	1970	48	-	○	/	×	/	×	40	募集 停止	18	○	×	○
		城栄住宅	住まい	1,842㎡	1977	41	-	○		×		×	30	100.0%	30	×	○	○
		青山住宅	住まい	6,220㎡	1976	42	-	○		×		×	103	86.4%	89	○	○	○
		清水住宅	住まい	4,875㎡	1982	36	-	○		×		○	61	98.4%	60	○	×	○
		狩股住宅	住まい	8,520㎡	1981	37	-	○		×		×	121	100.0%	121	×	○	○
		西町住宅	住まい	1,498㎡	1982	36	-	○		×		×	21	100.0%	21	○	○	○
		西町第2住宅	住まい	5,149㎡	1983	35	-	○		×		×	74	90.5%	67	×	○	○
		中河内住宅	住まい	7,541㎡	1987	31	-	○		×		×	106	88.7%	94	○	×	○
						建築年月 (※1)							H29年度利用状況					
													日数	利用台数				
駐車場	松山町駐車場	交通	9,301㎡	1997.10	21	-	○	/	×	○	○	365	137,880		×	○	○	
	平和公園駐車場	交通	8,540㎡	1994.6	24	-	○		×	○	○	365	81,943		○	○	○	

(3) 公園施設

サービス 圏域	種類	施設の名称	施設の機能	敷地面積	開設年月 (※1)	経過 年数	避難 所	耐震 性	使っ てい ない 部屋	スロ ープ	多目的 トイレ
市域 全体	公園 (※6)	稲佐山公園(総合公園)	観光レジャー	927,600㎡	1951.4	67	-				○
		平和公園(総合公園)	観光レジャー	157,500㎡	1955.8	63	○				○
地区		稲佐近隣公園(近隣公園)	観光レジャー	25,200㎡	1993.3	25	○				×

(4) その他施設

サービス 圏域	種類	施設の名称	施設の機能	床面積	建築年月 (※1)	経過 年数	避難 所	耐震 性	使っ てい ない 部屋	スロ ープ	多目的 トイレ	エレ ベーター (※2)	H29年度利用状況		施設にかかる費用(※3)		
													日数	利用者数	H27	H28	H29
-	遊休 資産	淵地区ふれあいセンターの 余剰スペース	高齢者交流	397㎡	1996.1	22	-	○	○	○	○	-	312	6,599	-	-	-

※1…主たる建物が複数ある場合は、最も古い建物の建築年月を記載しています。

※2…1階のみの建物は、「-」と記載しています。

※3…市全体で同じ用途の建物と比較したときに利用者1人当たりの費用が平均より低い場合は○、高い場合は×（利用者数を把握していない施設については、床面積1㎡当たりの費用で比較）と表記しています。

※4…市営ラグビー・サッカー場、市営陸上競技場、市営庭球場、市営ソフトボール場、市営弓道場は、公園施設としての位置づけのため、個別施設ごとの費用を把握していません。

※5…学校の利用者数は、平成30年5月1日現在の児童・生徒数です。

※6…公園は、比較的規模が小さい街区公園を除き、総合公園、近隣公園のみを記載しています。

- 総合公園…平和公園（平和発信の拠点）、長崎東公園や野母崎総合運動公園（スポーツの拠点）、稲佐山公園（都市景観の保全やレクリエーションの拠点）、金比羅公園、唐八景公園及び川原大池公園（自然とのふれあいの拠点）など、それぞれの公園において地形や特性を活かし、住民に総合的に利用されている公園です。
- 近隣公園…近隣に居住する住民の日常における憩いの場や、避難場所等防災の拠点となる公園です。
- 街区公園…街区内に居住する住民に利用されている公園です。

公共施設を見直すときのポイント（7つの視点）

(1) 市民利用型施設

サービス 圏域	種類	施設の名称	建築後 30年以上	地震に 弱い	あまり利用 されていない	未使用の 部屋がある	バリアフリー ではない	地区内に 類似施設がある	費用が多く かかっている	合計
市域 全体	スポーツ	市民総合プール							✓	1
		市営ラグビー・サッカー場								0
		市営陸上競技場	✓							1
		市営庭球場	✓							1
		市営ソフトボール場	✓							1
		市営弓道場	✓				✓			2
		市民アーチェリー場	✓	✓	✓		✓			4
	火葬場	もみじ谷葬斎場	✓							1
	博物館等	科学館								0
	観光	長崎ロープウェイ	✓	✓			✓			3
地区	平和	原爆遺跡旧城山国民学校校舎	✓	✓			✓			3
	コミュニティ	淵地区ふれあいセンター						✓		1
		緑が丘地区ふれあいセンター						✓		1
		老人憩の家つつじ荘	✓		✓		✓	✓		4
		稲佐地域コミュニティ消防センター								0
		西城山交流センター	✓							1
	学校	稲佐小学校	学校施設は、児童生徒によりよい教育環境を提供する視点で、教育委員会が検討を進めております。							
		城山小学校								
		西城山小学校								
		西町小学校								
		淵中学校								
		緑が丘中学校								
	放課後 児童 クラブ	いなさっこクラブ(稲佐小)	✓				✓	✓		3
		城山学童クラブ(城山小)	✓		✓		✓	✓		4
		若草学童クラブ(西城山小)	✓				✓	✓	✓	4
		西町どんぐりいず(西町小)	✓				✓	✓	✓	4
	子育て	緑が丘地区子育て支援センター「ピクニック」	✓				✓			2

(2) 都市基盤型施設

サービス 圏域	種類	施設の名称	建築後 30年以上	地震に 弱い	あまり利用 されていない	未使用の 部屋がある	バリアフリー ではない	地区内に 類似施設がある	費用が多く かかっている	合計
市域 全体	市営住宅	富士見住宅	✓		✓		✓	✓		4
		城栄住宅	✓				✓	✓		3
		青山住宅	✓				✓	✓		3
		清水住宅	✓				✓	✓		3
		狩股住宅	✓				✓	✓		3
		西町住宅	✓				✓	✓		3
		西町第2住宅	✓				✓	✓		3
		中河内住宅	✓				✓	✓		3
	駐車場	松山町駐車場					✓			1
		平和公園駐車場					✓			1

(3) 公園施設

サービス 圏域	種類	施設の名称	建築後 30年以上	地震に 弱い	あまり利用 されていない	未使用の 部屋がある	バリアフリー ではない	地区内に 類似施設がある	費用が多く かかっている	合計
市域全体	公園	稲佐山公園(総合公園)								0
		平和公園(総合公園)								0
地区		稲佐近隣公園(近隣公園)					✓			1

(4) その他の施設

サービス 圏域	種類	施設の名称	建築後 30年以上	地震に 弱い	あまり利用 されていない	未使用の 部屋がある	バリアフリー ではない	地区内に 類似施設がある	費用が多く かかっている	合計
—	遊休資産	淵地区ふれあいセンターの余剰スペース			✓	✓				2

【7つの視点のチェックについて】

- 1…建てられてからの年数が30年以上のものに✓
- 2…耐震性がない建物に✓
- 3…市全体で同じ種類の建物と比較したときに平均より貸室の稼働率または入居率が低い場合に✓
貸室の稼働率または入居率がない施設は、1日当たりの利用者数が平均より低い場合に✓
- 4…使われていない部屋などがある場合に✓
- 5…入口にスロープ、2階以上の建物にエレベーター、多目的トイレのいずれか1つでもなければ✓
- 6…地区内に同じような使い方をしている施設がある場合に✓
- 7…施設にかかる費用が3か年のうち2か年以上×の場合に✓

※地区計画に記載している公共施設配置図、公共施設の情報及び利用者数などのグラフは、地区関係者の皆さまへ計画（案）のご意見等をお伺いした時点（令和2年11月）のものです。

5 将来の方向性

≪「5 将来の方向性」の見方≫

〇〇施設の 施設配置の 基本的な考え方	※将来の長崎の姿（2040 年）を踏まえた行政サービスの方向性と、施設配置についての、市の基本的な考え方を記載しています。
---------------------------	---

ア 現状及び課題

(個別施設名)	
<div>写真及び イメージ画像</div>	<div>【建築年】</div> <div>【開館時間】</div> <div>【休館日】</div> <div>【年間利用者数】</div> <div>【1 日当たりの利用者数】</div> <div>【概要】</div> <ul style="list-style-type: none"> 施設の経緯や、現状、使われ方などを記載しています。
<div>【現状及び課題】</div> <ul style="list-style-type: none"> ハード、ソフト面における現状・課題を記載しています。 市民対話で出された主な意見などを記載しています。 	

イ 施設のあり方や見直しの方向性

※施設配置についての基本的な考え方と、市民対話で頂いた意見・アイデア等を踏まえて検討した、当該施設の今後のあり方や方向性を記載しています。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030 以降～	
(A 施設)	→			施設のあり方を検討する
(B 施設)				適正管理を行う

今後見直しの検討が必要と判断した施設については、その実施期間を矢印で示しています。

当面、現施設を維持すると判断した施設については、矢印の記載を省略しています。

「施設のあり方や見直しの方向性」はロードマップにも簡潔に記載しています。

(1) 市民利用型施設

①スポーツ施設（市民総合プール、市営ラグビー・サッカー場、市営陸上競技場、市営庭球場、市営ソフトボール場、市営弓道場、市民アーチェリー場）

<p>スポーツ施設の 施設配置の 基本的な考え方</p>	<p>市民が生涯にわたってスポーツに関わることにより、健康で豊かな生活を送ることができ、また、競技力の向上を図ることにより、地元選手がスポーツ大会で活躍することを目指しており、その活動の場として、スポーツ施設は重要な役割を担っています。</p> <p>そのためには、市民が身近な場所でスポーツができる施設、スポーツ大会を開催するための機能を備えた施設など、配置場所や利用形態に応じた施設を配置する必要がありますが、スポーツの種類は多種多様であり、すべてを同じ条件で配置することはできないことから、施設の廃止、集約を検討するとともに、県立や民間のスポーツ施設も利用しながら、維持していくことが必要な施設については、可能な限り、施設の機能の質の向上を図ります。</p> <p>施設の配置にあたっては、サービスを提供する範囲（サービス圏域）による施設分類（全市施設、複数地区施設、地区施設）と利用形態による施設分類（大規模大会利用施設、市内大会等利用施設、競技練習等利用施設、レクリエーション等利用施設）の2つの分類の組み合わせによる配置とします。</p> <p>《サービス圏域による施設分類》</p> <p>(1) 全市施設</p> <p>市域全体を対象として、都心部及び都心周辺部に配置します。</p> <p>2040年には、人口減少に伴う競技人口の減少は見込まれるものの、競技種目はこれまで同様存続すると考えられることから、現在と同程度の大会開催が見込まれるため、現在と同程度の施設規模及び数量の施設を配置します。</p> <p>(2) 複数地区施設</p> <p>地域の競技練習やレクリエーション等の利用施設として、市内の中央、東部、南部及び北部の各地域内において、各地区からの交通の便がよい場所（地域拠点又は交通結節点）に、体育館、庭球場及びプール（温水）を配置します。プール（温水）については、清掃工場の余熱を利用した施設であることから清掃工場の隣接地に配置します。</p> <p>なお、近隣に民間施設がある場合は、民間施設を有効に活用していきます。また、施設の利用状況（稼働率等）などを踏まえ、将来の利用人口に応じて施設の集約化を図り、施設規模の見直しを行います。</p> <p>(3) 地区施設</p> <p>普段の生活に必要なサービスを提供することができる場所に配置します。</p> <p>地区における生涯スポーツの推進及び競技スポーツの競技力向上を図るため、公園機能の一つとして配置されているグラウンドを、継続して配置します。</p>
--------------------------------------	--

また、街区公園等の広場、小・中学校等の体育施設（運動場、体育館、武道場など）、ふれあいセンター等の軽スポーツ室も地区施設として活用します。

《利用形態による施設分類》

区 分	定 義
大規模大会利用施設	<ul style="list-style-type: none"> ・全国、九州、県大会等の大規模な大会に利用するための施設 ・公式大会開催に必要な競技環境（施設規模や設備等）、競技を見るための観客席及び参加者や観覧者のための駐車場を整備している施設
市内大会等利用施設	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模大会利用施設の補助会場や練習会場として、また、市内大会や小規模大会の開催に利用するための施設 ・市内大会等開催に必要な競技環境等を整備している施設
競技練習等利用施設	<ul style="list-style-type: none"> ・主に競技練習や健康増進のための運動に利用するための施設 ・競技練習のための競技環境を整備している施設
レクリエーション等利用施設	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会やイベント開催などレクリエーション等目的で利用している施設 ・レクリエーション等を開催できるスペースがある施設

ア 現状及び課題

市民総合プール



【建築年】1996年

【利用時間】

（6月15日～7月20日・9月1日～15日）9：00～20：00

（7月21日～8月31日）平日・土曜日 11：30～21：00

日曜日・祝日 9：00～21：00

（9月16日～翌年6月14日）平日 13：00～21：00

土・日・祝日 9：00～20：00

【休館日】火曜日（7月20日～8月31日は除く）、年末年始

※屋外プールは9月16日～翌年6月14日

【年間利用者数】175,222人

【1日当たりの利用者数】565人 ※利用者数は平成29年度実績

【概要】

- 屋内には日本水泳連盟公認の50mプール（8コース）、25mプール（7コース）等があり、1,680席の観覧席を備えています。
- 屋外には、流水プールやスライダーなどがあります。
- 市営ラグビー・サッカー場や県営野球場とは、プロムナードデッキで結ばれています。

【現状及び課題】

- 九州大会や県大会などの大規模大会会場として使用されるほか、日常の競技練習にも利用されています。また、夏季は屋外プールが子どもたちや家族連れに親しまれています。
- 建設から22年を経過しており、今後、大規模改修の時期を迎えることになります。

市営ラグビー・サッカー場



【建築年】 1997 年

【利用時間】 8 : 00～21 : 00

【休業日】 年末年始

【概要】

- 夜間照明設備を備えた人工芝の競技場です。約 2,500 人を収容できるスタンドもあります。
- 県営野球場や市民総合プールとは、プロムナードデッキで結ばれています。
- 地下部は、松山町駐車場となっています。

【現状及び課題】

- 日常の競技練習での利用のほか、市内規模の大会の会場や、全国大会などのサブ会場や練習会場として利用されています。

市営陸上競技場



【開設年】 1953 年

【概要】

- 第4種公認競技場で1周400mのトラックのほか、フィールドには投てき場や跳躍場があります。
- 占用利用でなければ、特に申請を必要とすることなく、自由に利用できます。

【現状及び課題】

- 陸上競技の練習のほか日常の健康増進のために、市民の皆さんから幅広く利用されています。
- 正面スタンド及び外周スタンドを撤去し、フィールドと一体的な芝生広場として再整備し、市民のいこいの場としても利用されています。

市営庭球場



【開設年】1953 年

【利用時間】8 : 00～21 : 00

【休業日】年末年始

【概要】

- 7面のコートを用意しています。
- 県内では唯一の屋根付庭球場です。夜間照明設備もあります。

【現状及び課題】

- 日常の競技練習の場としての利用のほか、市内大会の会場として、また九州大会や県大会などの大規模な大会の雨天時の会場として利用されています。

市営ソフトボール場



【開設年】1968 年

【利用時間】6 : 00～21 : 00 (3月～10月)

8 : 00～21 : 00 (11月～2月)

【休業日】年末年始

【概要】

- 敷地面積は約 6,400 m²で、夜間照明設備を備えた中堅両翼 65mの競技場です。

【現状及び課題】

- 日常の競技練習の場としての利用のほか、市民早朝ソフト、ナイターソフトの会場として利用されています。

市営弓道場



【開設年】1955 年

【利用時間】8 : 00～17 : 00

【休業日】年末年始

【概要】

- 施設面積は約 2,900 m²で、4人が同時に競技できる 60mの遠的場と、6人が同時に競技できる 28mの近的場があります。

【現状及び課題】

- 日常の競技練習の場としての利用のほか、市内大会の開催にも利用されています。

市民アーチェリー場



【建築年】1973 年

【利用時間】12 : 00～20 : 00 (平日)

10 : 00～18 : 00 (土・日曜日、祝日)

【休業日】火曜日、休日の翌日、年末年始

【年間利用者数】3,102 人

【1 日当たりの利用者数】11 人 ※利用者数は平成 29 年度実績

【概要】

- 市内唯一のアーチェリー専用施設です。

【現状及び課題】

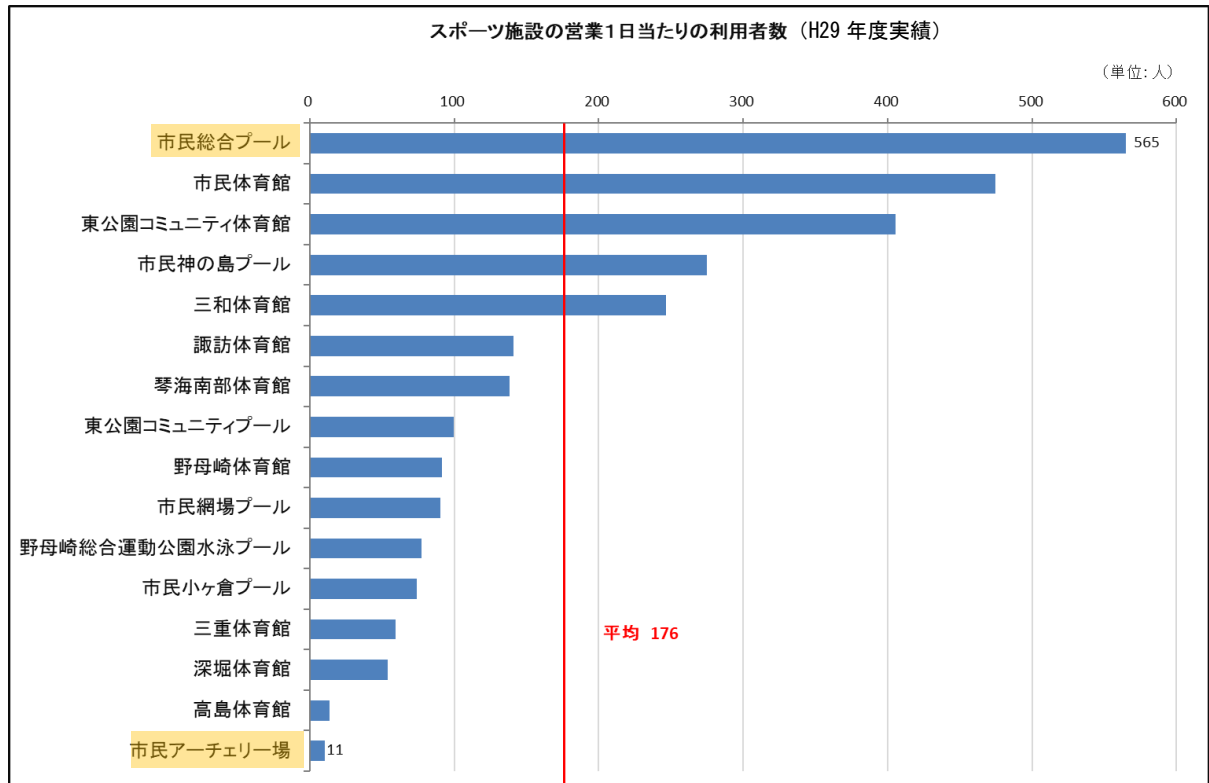
- 日常の競技練習の場としての利用のほか、市内大会の開催にも利用されています。
- 市民対話では、「場所が狭く、更衣室がなく不便。」という意見が出されました。

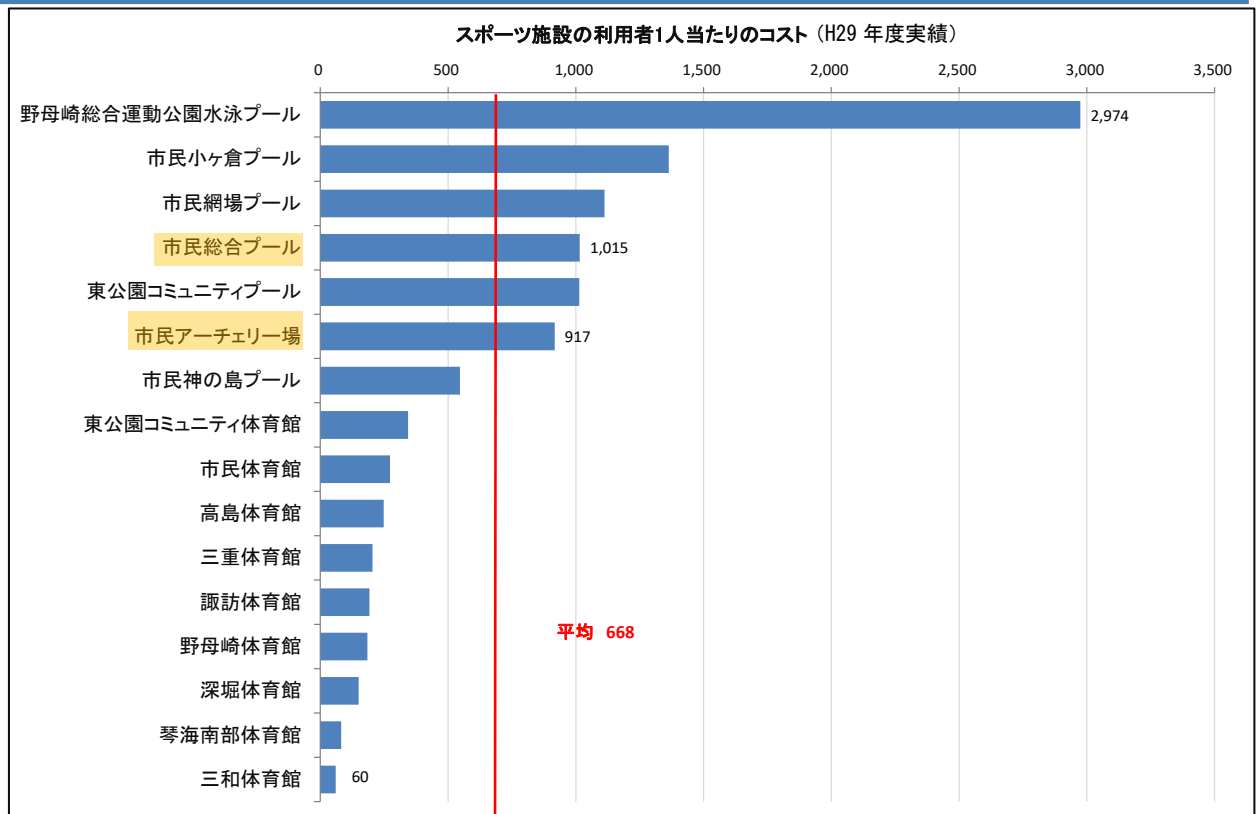
イ 施設のあり方や見直しの方向性

市民総合プール、市営ラグビー・サッカー場、市営庭球場、市営陸上競技場、市営弓道場、市営ソフトボール場、市民アーチェリー場は、いずれも全市民を対象とし、また、市営陸上競技場以外は大会を開催できる施設として配置しており、市営ラグビー・サッカー場及び市民アーチェリー場については現在の施設を適正に管理することとし、市民総合プール、市営庭球場、市営陸上競技場、市営弓道場及び市営ソフトボール場については、長崎南北幹線道路整備計画の状況を見極めながら施設の再配置を検討します。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030 以降～	
市民総合プール				適正管理を行う 長崎南北幹線道路整備計画の状況を見極めながら、施設のあり方を検討する
市営陸上競技場				
市営庭球場				
市営ソフトボール場				
市営弓道場				
市営ラグビー・サッカー場				適正管理を行う
市民アーチェリー場				






②火葬場（もみじ谷葬斎場）

火葬場の 施設配置の 基本的な考え方	<p>高齢者人口が増加しているなかで、火葬件数の増加に十分対応するとともに、故人との最後の別れの場に相応しい施設として、今後も市民のニーズに応じていきます。火葬件数は 2038 年頃をピークに増加し、以後緩やかに減少するものと考えられます。</p> <p>火葬件数の増加と火葬場の混雑防止のため、平成 28 年度から予約制を導入しており、現在の火葬場の施設規模（火葬炉数）で、当分の間、火葬件数の需用を賄うことができることから、現在の市内 1 か所の配置を維持します。</p>
--------------------------	--

ア 現状及び課題

もみじ谷葬斎場

	<p>【建築年】 1978 年</p> <p>【受付時間】 9 : 30～17 : 00</p> <p>【休館日】 1 月 1 日</p> <p>【火葬件数】 6,794 件</p> <p>【1 日当たりの火葬件数】 19 件 ※火葬件数は平成 29 年度実績</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内唯一の火葬場として設置されています。
	<p>【現状及び課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者人口が増加する中、今後 20 年近くは火葬件数が増加していくと予測されています。 火葬件数の増加と火葬場の混雑防止のため、平成 28 年度から予約制を導入し、火葬需要の分散化を図っています。 施設は築後 40 年が経過し、老朽化が課題となっています。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

<p>もみじ谷葬斎場は、市内唯一の施設として、現在の施設を引き続き適正に管理します。</p> <p>将来の建替えにあたっては、現地建替えも選択肢の一つとして、建替え予定地の地元住民の意向を十分に尊重するとともに、施設の規模や、緑化などの環境整備、住宅地からの距離に配慮して建替え場所を検討します。</p>
--


ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030 以降～	
もみじ谷葬斎場				現施設を適正に管理しながら、建替えについて検討する

③博物館等（科学館）

博物館等の施設配置の基本的な考え方	<p>博物館等は、関連する資料を収集、保管、展示し、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うことで、教育の振興や、学術及び文化の発展に寄与することなどを目的に設置しています。</p> <p>また、地域の特徴的な歴史文化遺産を明らかにし、顕在化することで、自分の街への誇りや愛着の涵養や、ひいては地域活性化にもつなげます。</p> <p>今後とも、貴重な資料を保存し、研究していくとともに地域独自の文化、歴史を適切な場所から発信していく必要があり、更に観光資源としても活用し、交流人口の拡大につなげます。</p> <p>一方、展示物の老朽化等により設置当初の機能を果たせていないものや、展示物の移転・集約が可能な施設もあるため、全体として見直しを図ります。</p>
-------------------	---

ア 現状及び課題

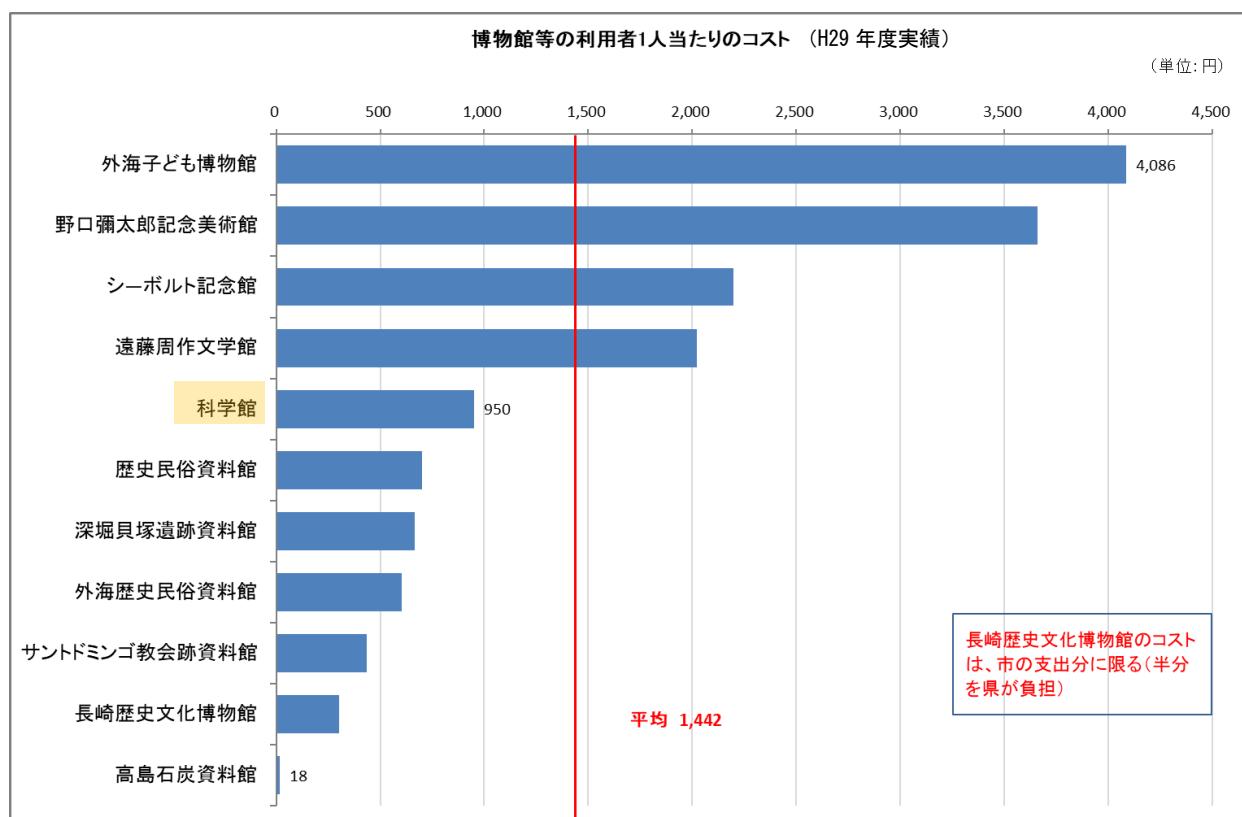
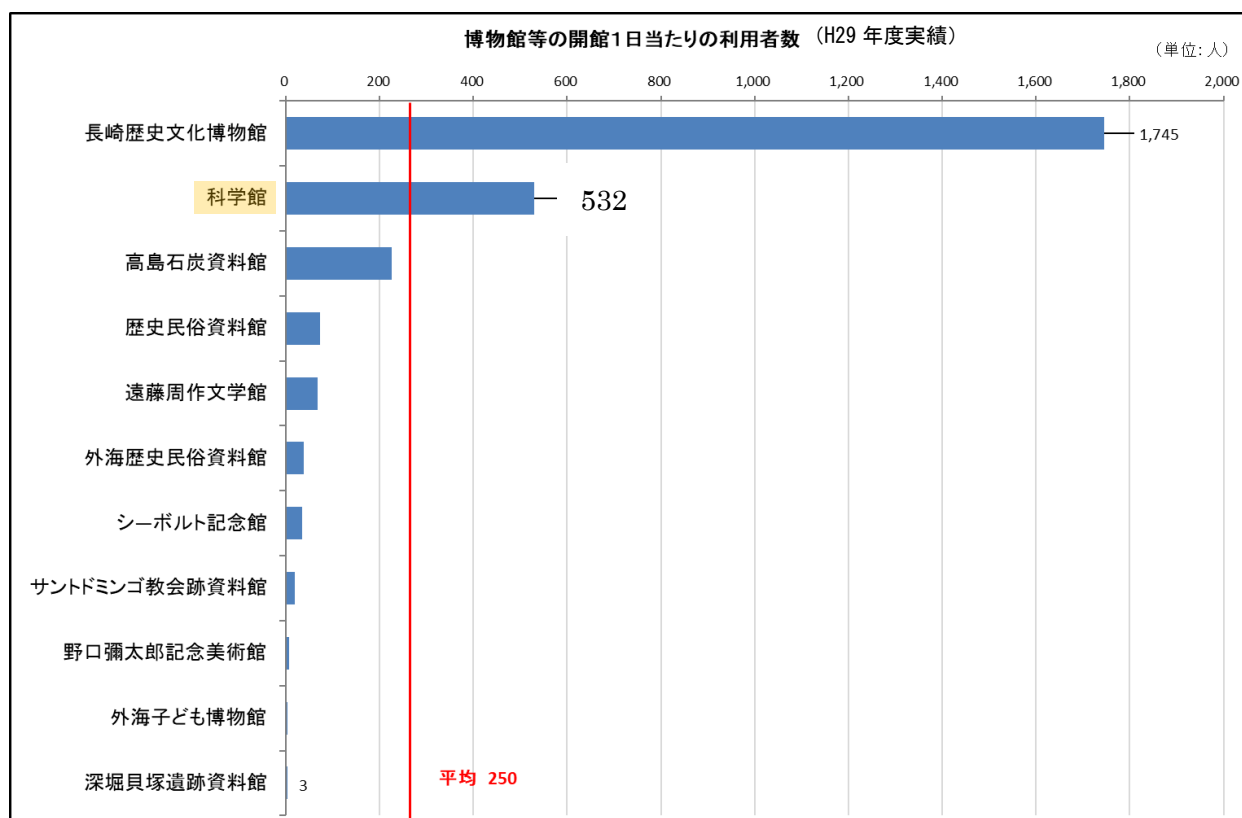
科学館	
	<p>【建築年】1996 年</p> <p>【開館時間】9：30～17：00</p> <p>【休館日】指定管理者が定める日</p> <p>【年間利用者数】161,754 人</p> <p>【一日当たりの利用者数】532 人 ※利用者数は平成 29 年度実績</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 展示室、プラネタリウム、天文台等により構成されています。
<p>【現状及び課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 時代の変化に伴い科学分野も日々進歩しているため、展示内容等については、定期的な見直しを行う必要があります。 ● 2014 年にプラネタリウムを、2017 年に天体望遠鏡を、2018 年に展示室をそれぞれリニューアルしました。 	

イ 施設のあり方や見直しの方向性

<p>科学館は、科学に触れ・楽しみ・学ぶ機会を提供する施設としての機能を果たしており、全市民を対象とした施設として、交通アクセスのよい市街地に 1 か所配置することし、今後も現在の施設を適正に管理します。</p>
--

ウ ロードマップ


施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030 以降～	
科学館				適正管理を行う



④観光施設（長崎ロープウェイ）

観光施設の 施設配置の 基本的な考え方	<p>観光施設は、設置目的に合わせた展示や体験等の魅力的なサービスを提供することで、観光客が市全体や観光スポットとなるエリアやポイントの魅力を体感したり、理解を深めたりするために設置しています。入場者や、今後、増加が見込まれる外国人観光客の満足度の向上を図るとともに、各施設へのリピート数を増やし、地域経済の活性化を促します。</p> <p>現在、本市への来訪者の約6割が、観光施設めぐり・世界遺産めぐりを観光目的としています（令和3年度観光動向分析より）。世界遺産や歴史的な人物、長崎らしい体験、長崎固有の文化財そのものが来訪目的となり得ることから、目的に合わせた拠点となる施設が必要ですので、観光客が施設等の魅力を感じ、理解を深め、高い満足度を得るような価値を有する場所に配置します。</p>
---------------------------	--

ア 現状及び課題

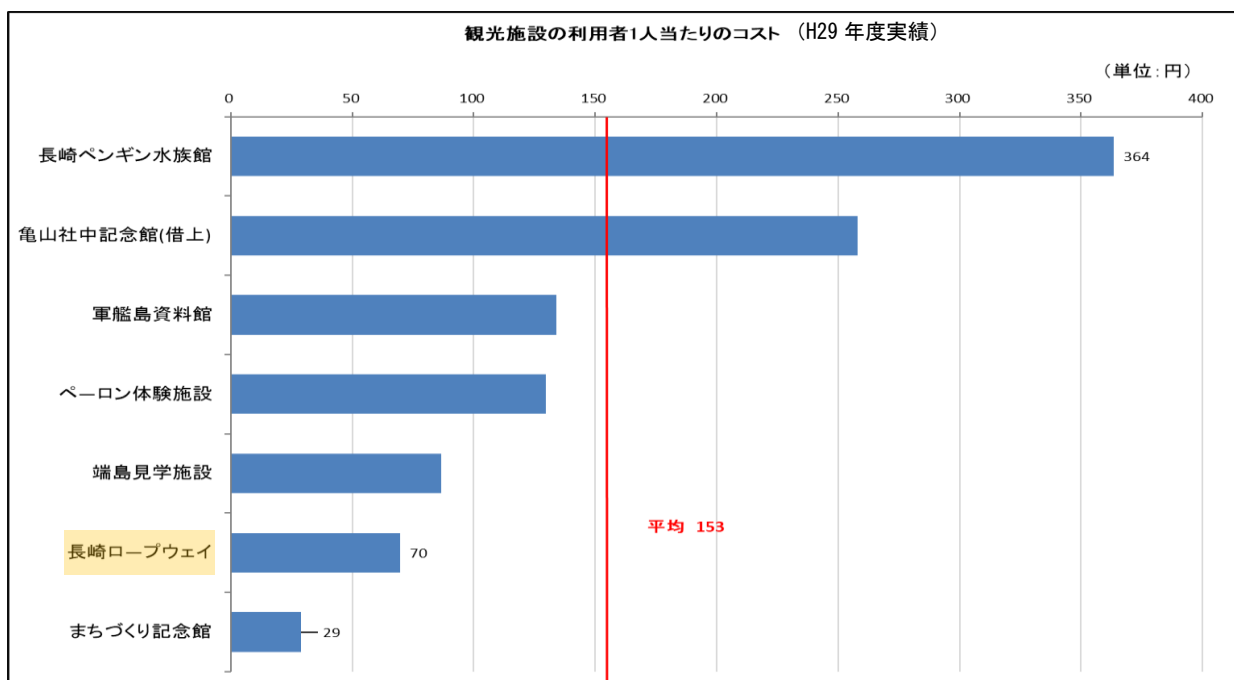
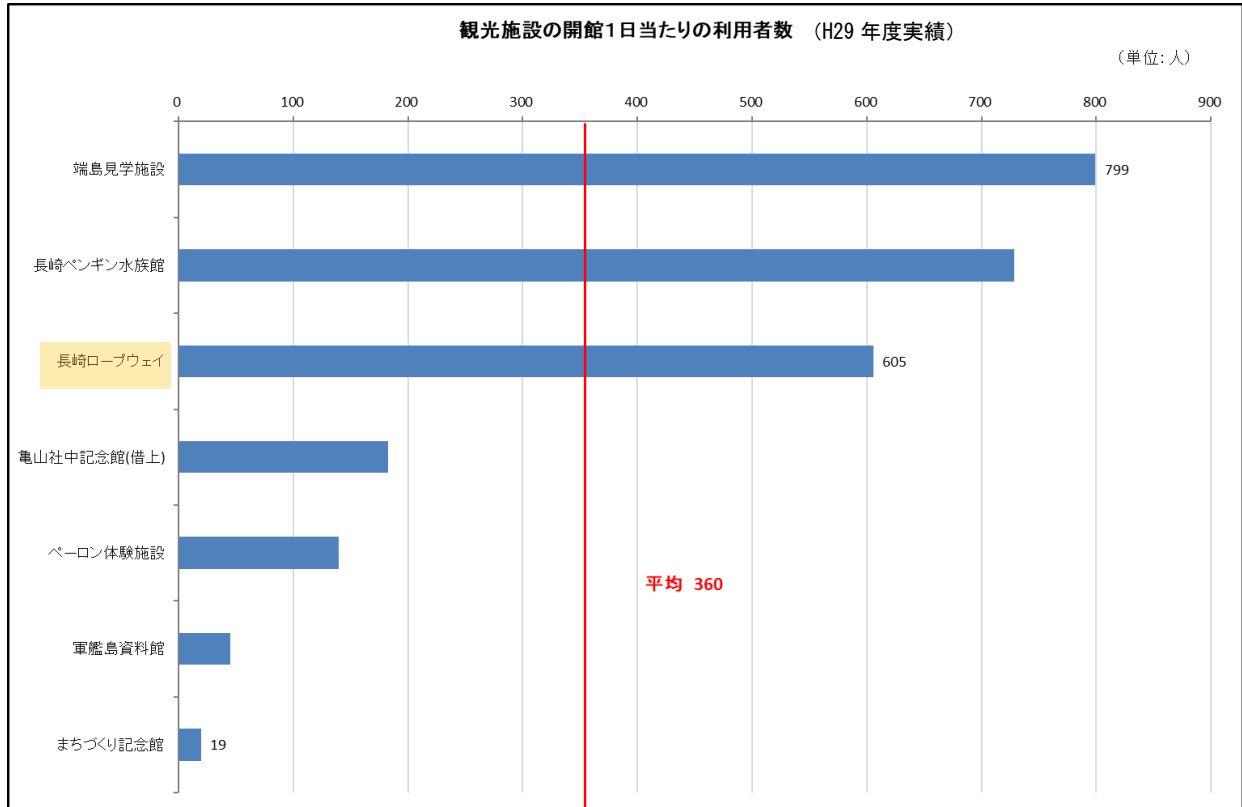
長崎ロープウェイ	
	<p>【建築年】1959 年</p> <p>【営業時間】9：00～22：00</p> <p>【休業日】不定休（天候や施設整備による）</p> <p>【年間利用者数】201,584 人</p> <p>【1日当たりの利用者数】605 人 ※利用者数は平成29年度実績</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 稲佐岳駅と麓の淵神社駅の間を運行（所要時間約5分、15～20分間隔で運行）。 ● 片道運賃：720 円／大人、510 円／中高生、410 円／小学生 410 円／幼児（未就学児は保護者1人につき1人無料）
<p>【現状及び課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2011年に、360度のパノラマビューを楽しめるゴンドラにリニューアルしました。 ● 2016年に、淵神社駅の耐震補強とバリアフリー化の改修工事を行いました。 ● 索道施設は建設から59年を経過しており、今後の改修費用が課題となります。 	

イ 施設のあり方や見直しの方向性

<p>夜景観光は本市の観光施策においても、宿泊滞在型観光を推進する有効な手段です。</p> <p>長崎ロープウェイは、長崎市の代表的な観光スポットである稲佐山へ至る主要な交通手段の一つであり、展望台利用者の約20%がロープウェイを利用しています。また、ゴンドラから見る夜景は長崎観光の魅力の一つであり、他の交通手段にない優位性があります。</p> <p>稲佐山山頂展望台の魅力向上と併せて、現在の施設を適正に管理します。</p>
--

ウ ロードマップ


施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
長崎ロープウェイ				適正管理を行う



⑤平和施設（長崎原爆遺跡旧城山国民学校校舎）

平和施設の 施設配置の 基本的な考え方	平和施設は、被爆者が高齢化するなか、時代を超えて、被爆の実相を伝え、核兵器廃絶を訴える施設として必要であり、被爆都市の使命として、被爆の実相と長崎市民の平和の願いを広く国内外に伝えていきます。
---------------------------	--

ア 現状及び課題

長崎原爆遺跡旧城山国民学校校舎	
	<p>【建築年】1937 年</p> <p>【開館時間】9：30～16：30 (ただし8月7日～10日は8：30～17：30まで)</p> <p>【休館日】年に6日</p> <p>【年間利用者数】31,684人</p> <p>【1日当たりの利用者数】88人 ※利用者数は平成29年度実績</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 爆心地に最も近い当時の国民学校で、500m離れた丘の上にあります。 ● 原爆によって、当時偉容を誇っていた白亜の九州初の鉄筋コンクリート3階建て校舎は原爆の強烈な爆風を受けて破壊され、熱線やその後の火災によると思われる焼け焦げた木レンガが今も内壁に残っています。
	<p>【現状及び課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 国内外から多くの見学者が訪れています。 ● 学校の敷地内にあることから、学校運営に支障を生じないような施設の管理運営を行う必要があります。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

「長崎原爆遺跡」として国の史跡に指定されており、長崎原爆の著しい痕跡が残る貴重な校舎として、被爆の実相を確実に後世に伝えるため、現在地に引き続き配置します。
また、指定管理者による適切な案内と管理運営により、校舎の維持管理や見学者へのサービス向上を図ります。

ウ ロードマップ

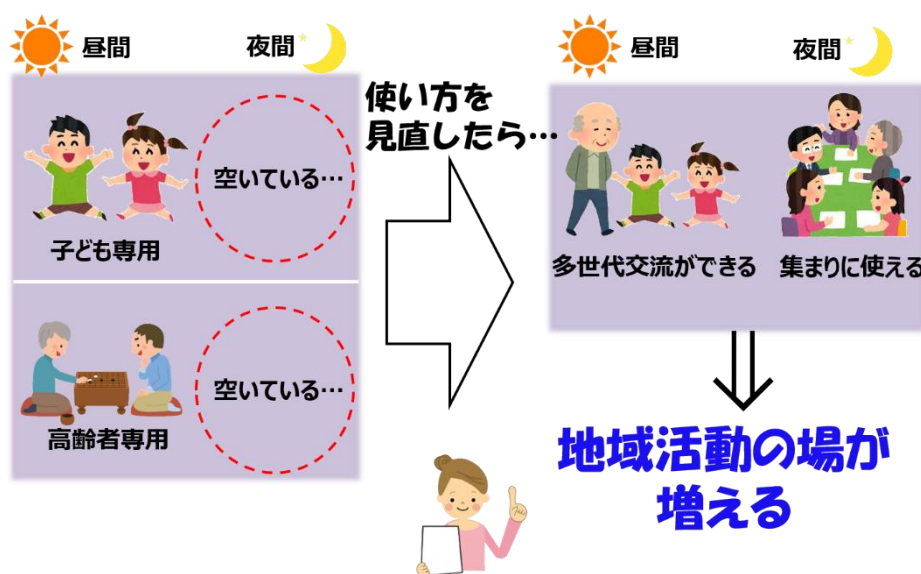
施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
原爆遺跡旧城山国民学校校舎				適正管理を行う

⑥コミュニティ活動施設（淵地区ふれあいセンター、緑が丘地区ふれあいセンター、老人憩の家つつじ荘、稲佐地域コミュニティ消防センター、西城山交流センター）

人口減少、少子高齢化が進むなかで、地域住民がふれあい、共に助け合うことで地域の中で心地よく暮らせるような、住みよい地域社会づくりを目指しており、そのためには、住民が気軽に立ち寄れ、地域活動などが行える地域コミュニティの活動の場（「居場所」・「話し合いの場」・「活動の場」・「生涯学習の場」）が必要です。

今後は、ふれあいセンターや地区公民館など、地域の身近な施設に加え、特定年齢層を利用対象とした施設（児童厚生施設等）も、将来的に、多世代が利用できる施設へ利用方法や機能を見直し、身近な場所で、地域の子どもから高齢者までの多世代が活動する場を維持していきます。

コミュニティ活動施設の施設配置の基本的な考え方



施設の大規模改修又は建替え時期には、コミュニティの形成状況、人口動態、利用状況及び同地区内にある市の既存施設の状況なども考慮しながら、施設の廃止や施設規模及び機能の見直しを検討します。

(1) 小学校区に配置する施設

コミュニティ活動の場の配置については、市民に最も身近な場所でサービスを提供することができる範囲である、概ね小学校区へ配置します。

(2) 中学校区に配置する施設（兼小学校区施設）

多数の人数が見込まれる等の活動や行事のため、小学校区にある施設よりも広いスペースや特定の設備を備えた施設については、概ね中学校区での配置とします。中学校区に配置する施設は、小学校区に配置する施設を兼ねることとします。

なお、中学校区に配置する施設の標準規模は、延べ床面積 600 m²程度とし、集会室、会議室、調理室、図書室などの機能を有する施設を基本として配置することとします。

(3) 広域的利用として配置する施設（兼中学校区施設）

中学校区を超えた大規模な催しや講座等が可能な施設として、中学校区にある施設よりも広いスペースやホールなど特定の設備を備えた施設については、都市計画マスタープランにおける地域拠点または交通の便の良い場所に3か所配置します。広域的利用として配置する施設は、中学校区に配置する施設を兼ねることとします。

(4) 全市的利用として配置する施設（兼広域的施設、兼中学校区施設）

広域的利用として活用する施設と同様に大規模な催しや講座等が可能な施設として、広いスペースやホールなど特定の設備を備えた中央公民館及び北公民館を交通の便利のよい都心部及び都心周辺部に配置します。

ア 現状及び課題

淵地区ふれあいセンター（2021年10月からデイサービスセンター跡をふれあいセンター（規模拡大）として活用済）



【建築年】1996年

【開館時間】9:00～17:00

【休館日】日曜日、年末年始

【年間利用者数】22,543人

【1日当たりの利用者数】73人 ※利用者数は平成29年度実績

【概要】

- 主に地域の行事・会議・グループによる講座等の活動や、行政の催しに使用されています。
- 地域の方々と構成する運営委員会に、指定管理者として管理運営を委託しています。
- 駐車場は10台分確保されていますが縦列駐車です。

【現状及び課題】

- 併設する老人デイサービスセンターの民間事業者への貸付が、平成30年12月31日で終了したため、退去後の空きスペースについて活用方法を検討する必要があります。
- 市民対話では、
「場所がわかりにくいので、わかりやすい案内板がほしい。」
「西城山からも利便性が良いので地域の拠点、ふれあいの場として、今までどおり維持すべき。」
「必ずしも地区にこだわらず、使える場合は、西城山地区の地域活動に利用していいのでは。」
「デイサービスセンターの退去後のスペースに、子育て支援センターが入居できないか。」
「子育て支援センターとしての活用は、周辺は交通量が少ないので、子どもの安全面からもよいのではないかと。ふれあいセンターの図書を読ませることもできる。」
「デイサービスセンター退去後のスペースは、子育て支援センター以外にも他の機能の取り込みが検討できないか。」
という意見が出されました。

緑が丘地区ふれあいセンター



【建築年】1989 年

【開館時間】9 : 00～17 : 00

【休館日】月曜日、年末年始

【年間利用者数】25,578 人

【1 日当たりの利用者数】83 人 ※利用者数は平成 29 年度実績

【概要】

- 主に地域の行事・会議・グループによる講座等の活動や、行政の催しに使用されています。
- 地域の方々と構成する運営委員会に、指定管理者として管理運営を委託しています。

【現状及び課題】

- 駐車スペースが限られています（3 台分）。
- 西町小学校区内に同じような使い方（地域の集まりや趣味教室など）ができる施設（つつじ荘）があります。
- 市民対話では、
「2 階の調理室の利用頻度が低い。イベントの際などは準備室や控室として使っている。もっと有効に活用できないか。」
「施設をもっとアピールし、地域に寄り添った運営をしていくといい。」
という意見が出されました。

老人憩の家つつじ荘



【建築年】1981 年

【開館時間】10 : 00～16 : 30

【休館日】日曜日、年末年始

【年間利用者数】10,147 人

【1 日当たりの利用者数】36 人 ※利用者数は平成 29 年度実績

【概要】

- 老人憩の家は、高齢者の方が入浴、談話やグループ活動、サークル活動などを通して健康の増進を図るための施設です。
- 60 歳以上の方が利用できます（60 歳未満の方も必要があると認める場合は、利用することができます）。

【現状及び課題】

- 多目的トイレやエレベーターの設置がありません。
- 建築後 37 年を経過しており、老朽化が進行しています。
- 西町小学校区内に同じような使い方（地域の集まりや趣味教室など）ができる施設（緑が丘地区ふれあいセンター）があります。

- 市民対話では、
「高齢者の憩いの場として毎日利用されている。」
「もっと人が集まるようPRに努めてほしい。」
「舞台が広すぎて使いづらいので、狭くして余った分を他に活用できないか。」
「高齢者向け施設とふれあいセンターを、なぜコミュニティ施設として一緒に考えるのかよくわからない。」
という意見が出されました。

稲佐地域コミュニティ消防センター



【建築年】2003 年

【概要】

- 消防団第20分団の格納庫と併設されています。
- 和室の研修室3部屋、調理室、防災研修室兼講堂などがあります。
- 主に地域の行事・会議・グループによる講座等の活動や、行政の催しに使用されています。

【現状及び課題】

- 地域のコミュニティ活動の場として利用されています。

西城山交流センター



【建築年】1963 年

【概要】

- 旧図書センター廃止後、市有財産の有効活用として、西城山連合自治会に建物の一部を貸与し、設置されています。
- 自治会活動やふれあいサロンとして活用されています。
- この建物には、緑が丘地区子育て支援センターと、若草学童クラブが併設されています。

【現状及び課題】



- 建物は築後50年以上を経過しており、老朽化が進行しています。
- 近い将来に、建物が物理的な耐用年数を迎えることを想定し、校区内にコミュニティ活動の場を確保する方法を、今後、検討する必要があります。
- 市民対話では、
「西城山小の空き教室を代替に使用できないか。」
「現在の場所は、高齢者が集まりやすく、一番利用しやすい。」
「地域が集まる場としては、近くには代替となる施設がないので、建替えはできないのか。」
「地域内の自治会公民館を強化して、コミュニティ施設として活用してはどうか。今の状態では、将来的に自治会の力で建替えるのも難しい。」
という意見が出されました。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

緑が丘・淵地区には4つの小学校区があり、それぞれの小学校区ごとに、コミュニティ活動に使える場所が必要と考えます。

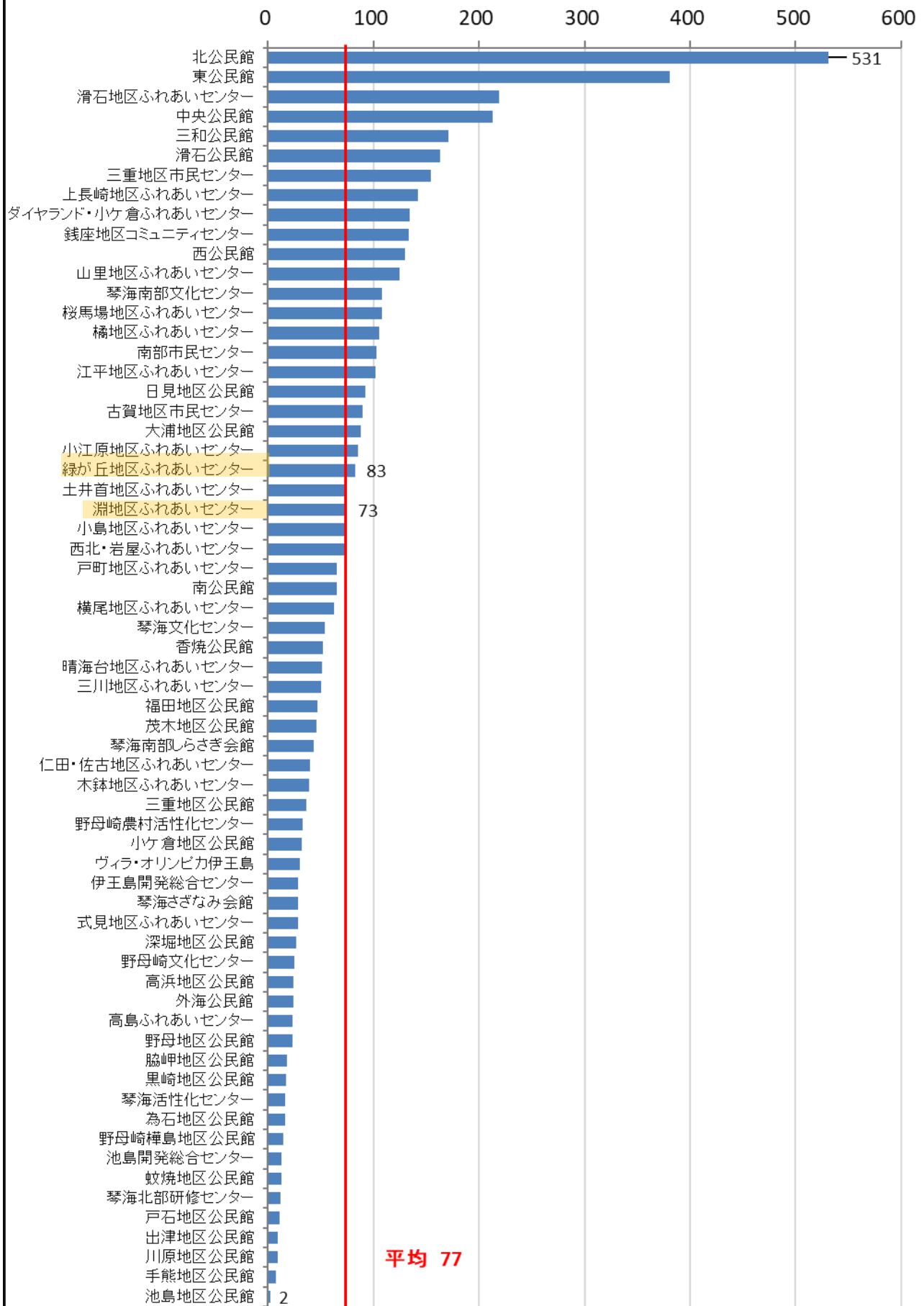
- 城山小学校区にある淵地区ふれあいセンターは、地域の皆さんのコミュニティ活動に利用できる施設として、現在の施設を引き続き適正に管理していきます。なお、ふれあいセンターに併設する「淵地区老人デイサービスセンター」が退去した後の空きスペースについては、「緑が丘・淵地区」の地理的な中心付近に立地していることや、施設の有効活用の観点から、子育て支援センターの移転先を含めた活用を検討します。
- 西町小学校区には、緑が丘地区ふれあいセンターと老人憩の家つつじ荘の2つの施設があります。緑が丘地区ふれあいセンターについては、地域の皆さんのコミュニティ活動に利用できる施設として、現在の施設を引き続き適正に管理します。また、つつじ荘については、施設の老朽化や利用の状況を見ながら、将来は高齢者の方だけではなく、地域の皆さんが使いやすい施設へと使い方を見直すことを検討します。
- 稲佐小学校区にある稲佐地域コミュニティ消防センターは、地域の皆さんがコミュニティ活動に利用できる施設として、現在の施設を引き続き適正に管理します。
- 西城山小学校区にある西城山交流センターは、使用している建物（旧図書センター）が築55年を経過し、老朽化が進んでいます。今後は耐用年数に合わせた修繕は行いますが、大規模な改修や建替えは行いません。しかし、区域内に地域活動の拠点としての機能を確保するため、民間施設の借上げや校区内の自治会公民館の活用なども含め、地元の皆さんとも協議を行いながら、建物の耐用年数を迎えるまでに、機能を確保する方法を検討していきます。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
淵地区ふれあいセンター				適正管理を行う
緑が丘地区ふれあいセンター				
老人憩の家つつじ荘				利用者数や設備の状況・耐用年数を踏まえ、高齢者専用施設としては適切な時期に廃止する
稲佐地域 コミュニティ消防センター				適正管理を行う
西城山交流センター				大規模な改修や建替えは行わず、区域内に地域活動の拠点としての機能を確保するための手法を検討する

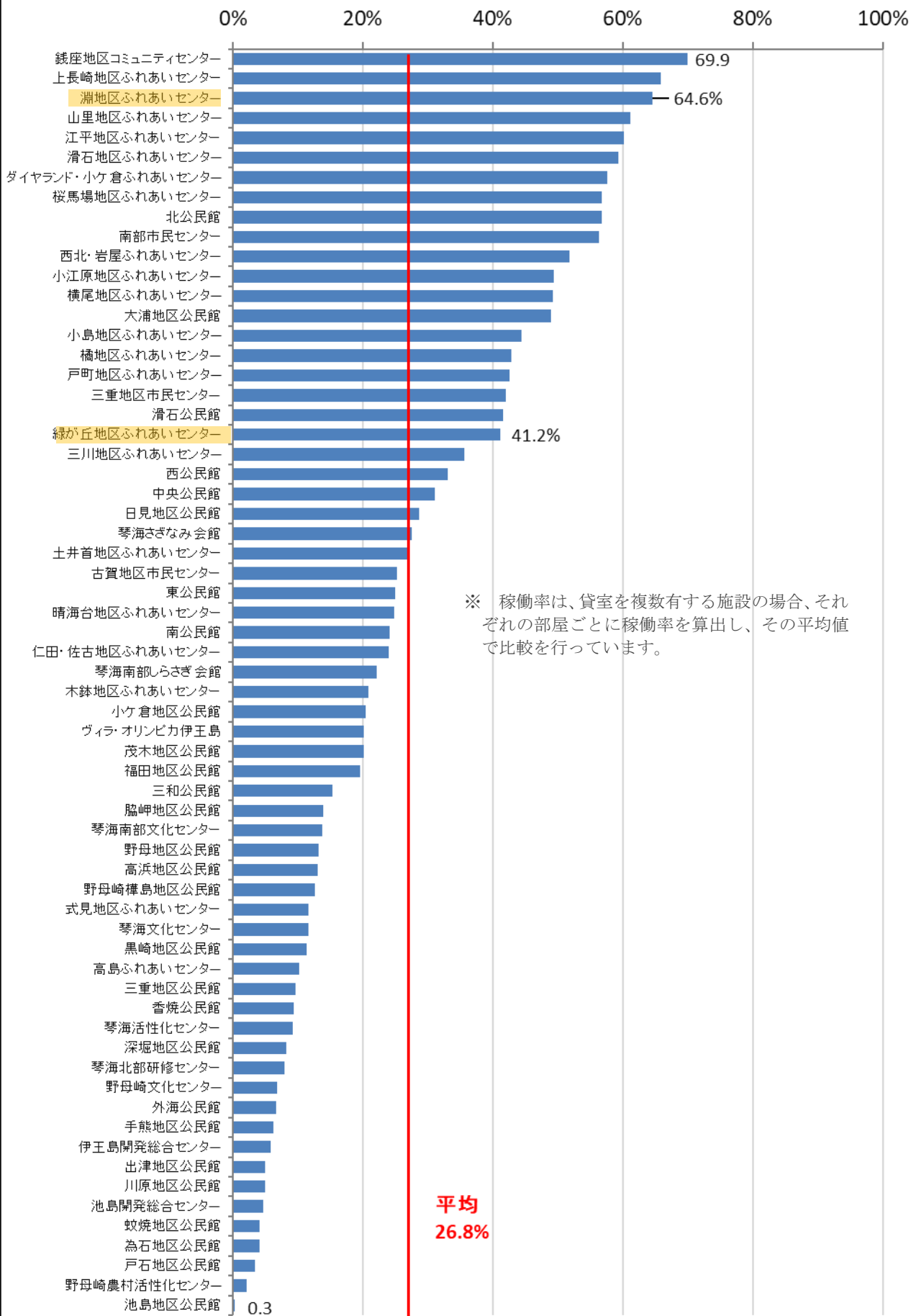
コミュニティ活動施設の開館1日当たりの利用者数 (H29 年度実績)

(単位: 人)



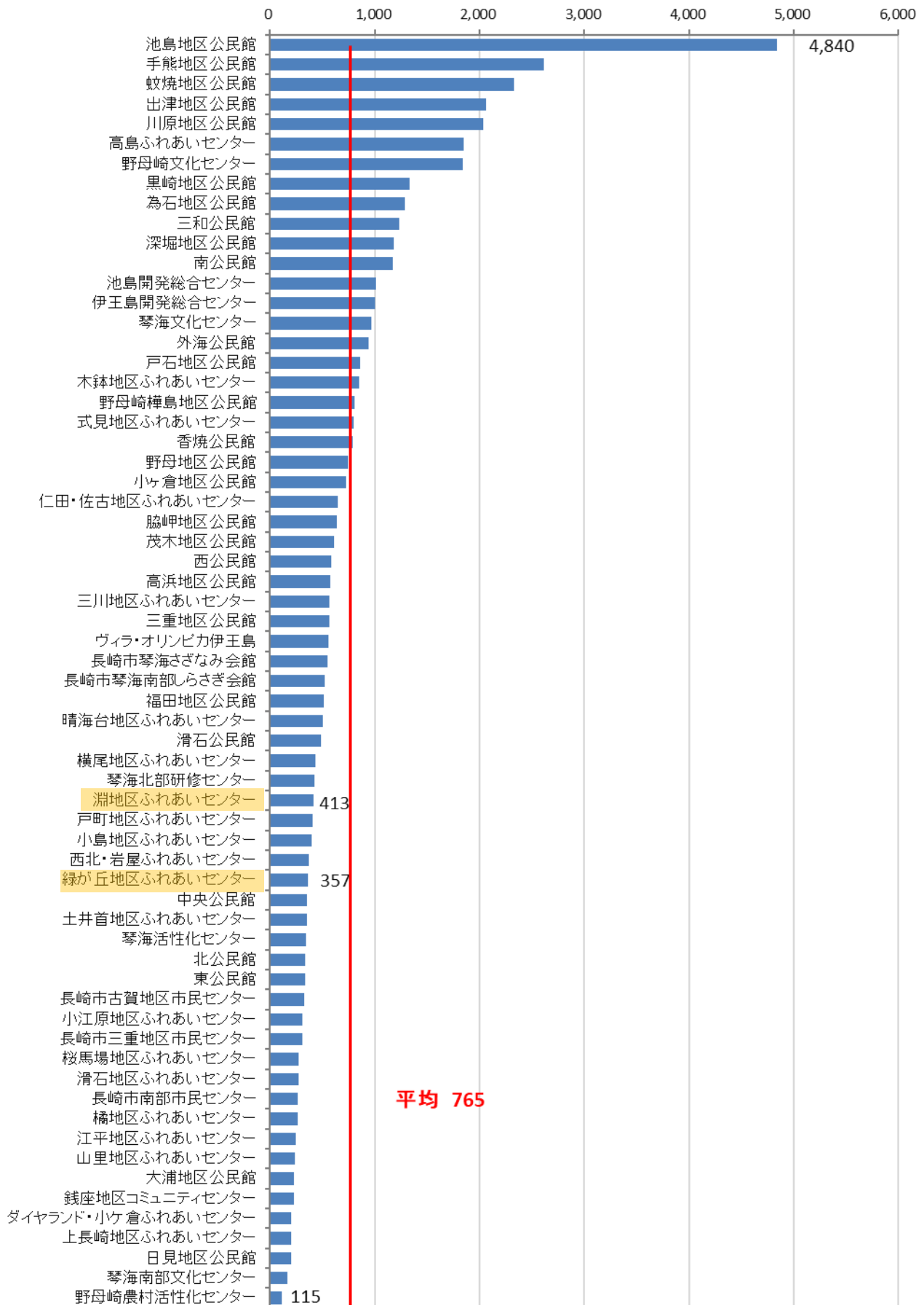
コミュニティ活動施設の貸室の稼働率 (H29 年度実績)

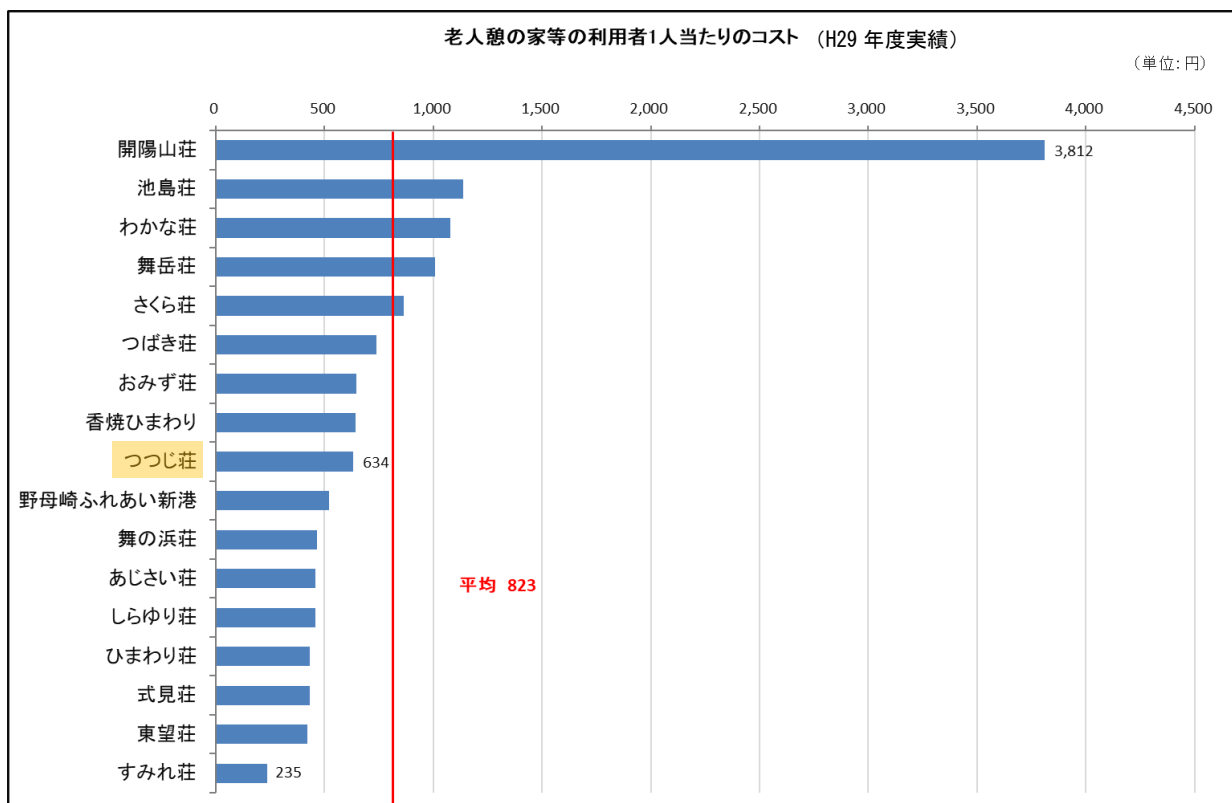
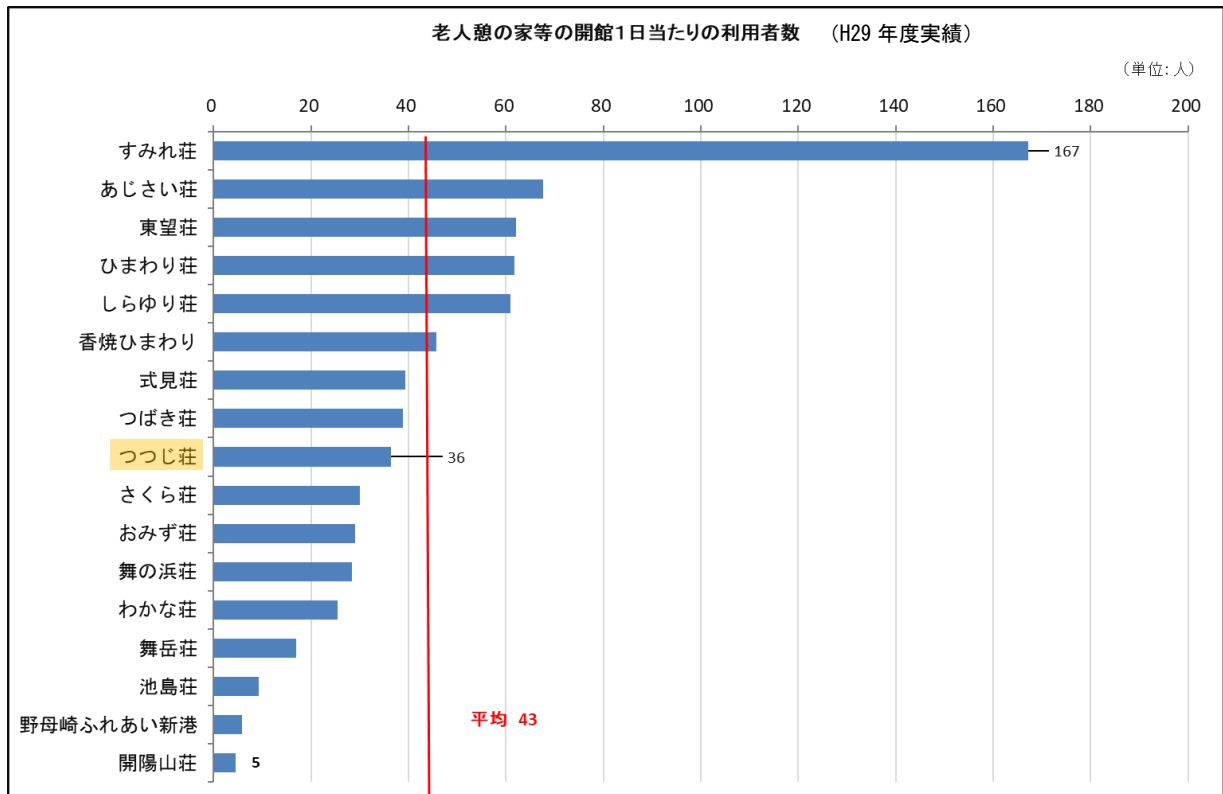
(単位: %)



コミュニティ活動施設の利用者1人当たりのコスト (H29 年度実績)

(単位: 円)





⑦学校（稲佐小学校、城山小学校、西城山小学校、西町小学校、淵中学校、緑が丘中学校）

学校の施設配置の
基本的な考え方

学校は、児童生徒が確かな学力を身に付け、集団の中で社会性を育んでいく役割を担っています。また、学校行事や部活動などを通して人間性、協調性を育む場でもあります。

子どもたちは集団生活の中で学習することによって、知的にも社会的にも成長するため、一定の学校規模を確保する必要があります。

長崎市の小中学校の児童生徒数は、昭和 30 年代のピーク時と比較し、約 7 割減少していますが、その一方で、学校の数大きく変わっておらず、多くの学校で小規模化が進んでいます。

このような中、子どもたちが集団生活の中で活気に満ちた活動ができるような学校規模を確保するため、「望ましい学校規模」として、小学校にあっては、人間関係の固定化を防ぎ、集団の中で多様な考え方にふれ、切磋琢磨できるよう、クラス替えができる 12 から 18 学級としています。



中学校では、これらに加え、全教科に教員配置ができることや、部活動の十分な選択ができることなどの理由により、9 から 18 学級とし、小中学校の規模の適正化と適正配置に取り組みます。

また、児童生徒の通学については、原則徒歩通学としますが、バス等の交通機関の利用を認める場合は小学校においては通学距離 2 k m 以上、中学校においては 3 k m 以上の際に通学費の一定額を補助しており（小学校で 4 k m 以上、中学校で 6 k m 以上の場合は全額補助）、自宅から学校までバス等の交通機関の利用を含めて概ね 1 時間以内の範囲で適正配置を行います。

ア 現状及び課題

稲佐小学校		西城山小学校	
	【建築年】 1975 年 【児童数】 253 人 ※児童数は平成 30 年 5 月 1 日現在		【建築年】 1957 年 【児童数】 372 人 ※児童数は平成 30 年 5 月 1 日現在
城山小学校		西町小学校	
	【建築年】 1966 年 【児童数】 497 人 ※児童数は平成 30 年 5 月 1 日現在 【概要】 <ul style="list-style-type: none"> ● 学校敷地内に、国史跡である原爆遺跡旧城山国民学校校 		【建築年】 1956 年 【児童数】 346 人 ※児童数は平成 30 年 5 月 1 日現在

	舎が設置されています。		
--	-------------	--	--

淵中学校	緑が丘中学校
 <p>【建築年】1984 年 【生徒数】442 人 ※児童数は平成 30 年 5 月 1 日現在</p>	 <p>【建築年】1961 年 【生徒数】293 人 ※児童数は平成 30 年 5 月 1 日現在</p>

共 通

【現状及び課題】

- この地区の小中学校は、建築後 50 年を超えるなど、学校施設の老朽化が進行しています。
- 市民対話では、
「学校は地域に一番身近にある施設なので、もっと活用するよう考える必要がある。」
「子どもの数が減っているので、学校の空き教室は積極的に活用してはどうか。」
「自治会も空き教室を自由に使ってよいのではないか。」
「西城山交流センターや若草学童クラブが入居している建物（旧図書センター）は老朽化しているの、西城山小学校の空き教室を活用できないのか。」
という意見が出されました。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

「長崎市立小学校・中学校における規模の適正化と適正配置の基本方針」に基づく「学校規模の適正化と適正配置にかかる実施計画（案）」において、緑が丘・淵地区の小中学校は、現時点では優先して規模の適正化が必要な学校とは位置付けていません。

今後とも、児童生徒数の推移を注視しながら、施設については、適正な維持管理に努めます。また、老朽化した学校施設については、計画的に改修、建替えを行います。


ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
稲佐小学校				適正管理を行う
城山小学校				現施設を適正管理し、計画的に改修、建替えを行う
西城山小学校				
西町小学校				
淵中学校				適正管理を行う
緑が丘中学校				現施設を適正管理し、計画的に改修、建替えを行う

⑧放課後児童クラブ（いなさっこクラブ、城山学童クラブ、西町どんぐりいす、若草学童クラブ）

放課後児童クラブ の施設配置の 基本的な考え方	<p>子どもたちの放課後等における安全・安心な居場所の確保を図るために、小学校区ごとに放課後児童クラブを設置します。</p> <p>児童数は、ほとんどの小学校において減少が見込まれるものの、保護者が安心して働けるよう、子どもたちの放課後等において、適切な遊びや生活ができる場所を提供する必要があるため、基本的には、小学校区ごとに利用見込みに応じた放課後児童クラブを配置することとしています。</p> <p>放課後児童クラブの子どもの集団の規模は、放課後児童クラブ運営指針に基づき、子どもが相互に関係性を構築し、1つの集団としてまとまりをもって共に生活し、放課後児童支援員が個々の子どもと信頼関係を築くことができる規模として、概ね40人以下とします。</p> <p>放課後児童クラブの配置については、学校の統廃合と併せて、事業者に対し放課後児童クラブの運営の統合を働きかけていくとともに、1つの事業者が複数の放課後児童クラブの運営を行うよう、調整を図ります。</p> <p>また、学校の統廃合にかかわらず規模が小さい放課後児童クラブが生じる場合は、子どもたちの環境面や、クラブの運営面における影響を考慮し、特に利用児童数が10人以下の小規模の放課後児童クラブについては、適正な規模となるよう統合を図っていきます。</p> <p>その際、放課後児童クラブが未設置校区となる児童については、既存の送迎支援に係る補助制度の利用を図りながら、安全面の確保を行っていきます。</p> <p>新たな施設整備や施設の更新が必要となる場合は、事業者による施設整備を支援することで、子どもたちの放課後等における居場所の確保を図ります。</p>
-------------------------------	---

ア 現状及び課題

いなさっこクラブ	
	<p>【建築年】1975 年</p> <p>【月平均登録者数】81 人 ※月平均登録者数は平成 29 年度実績</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 稲佐小学校の転用可能教室を活用し設置されています。
<p>【現状及び課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 運営にあたっては、学校側との管理区分を明確にし、安全性を確保する必要があります。 	

城山学童クラブ



【建築年】1966 年

【月平均登録者数】62 人 ※月平均登録者数は平成 29 年度実績

【概要】

- 城山小学校の転用可能教室を活用し設置されています。

【現状及び課題】

- 運営にあたっては、学校側との管理区分を明確にし、安全性を確保する必要があります。

西町どんぐりいず



【建築年】1969 年

【月平均登録者数】60 人 ※月平均登録者数平成 29 年度実績

【概要】

- 西町小学校の転用可能教室を活用し設置されています。

【現状及び課題】

- 運営にあたっては、学校側との管理区分を明確にし、安全性を確保する必要があります。

若草学童クラブ（2023 年 3 月_移転済）



【建築年】1963 年

【月平均登録者数】66 人 ※月平均登録者数は平成 29 年度実績

【概要】

- 旧図書センターの建物の一部を活用して設置されています。
- この建物には、西城山交流センターと緑が丘地区子育て支援センター「ピクニック」が併設されています。


【現状及び課題】

- 現在使用している建物（旧図書センター）は、築 55 年を経過し老朽化が進んでいます。
- 今後は、耐用年数を考慮した改修にとどめ、大規模な改修や建替えは行わないこととしていますが、引き続き西城山小学校区内に機能を確保する必要があります。
- 市民対話では、
「学校内にあれば、保護者も子どもも安心してきて望ましい。」
「施錠など管理の課題はあるが、西城山小学校の空き教室を活用して移転できないか。」
「子育て支援センターや放課後児童クラブの機能を一旦、淵地区のふれあいセンター等へ移転し、淵地区ふれあいセンターが老朽化し建替えのタイミングで、旧図書センターの場所に複合施設を整備できたらいい。」
という意見が出されました。

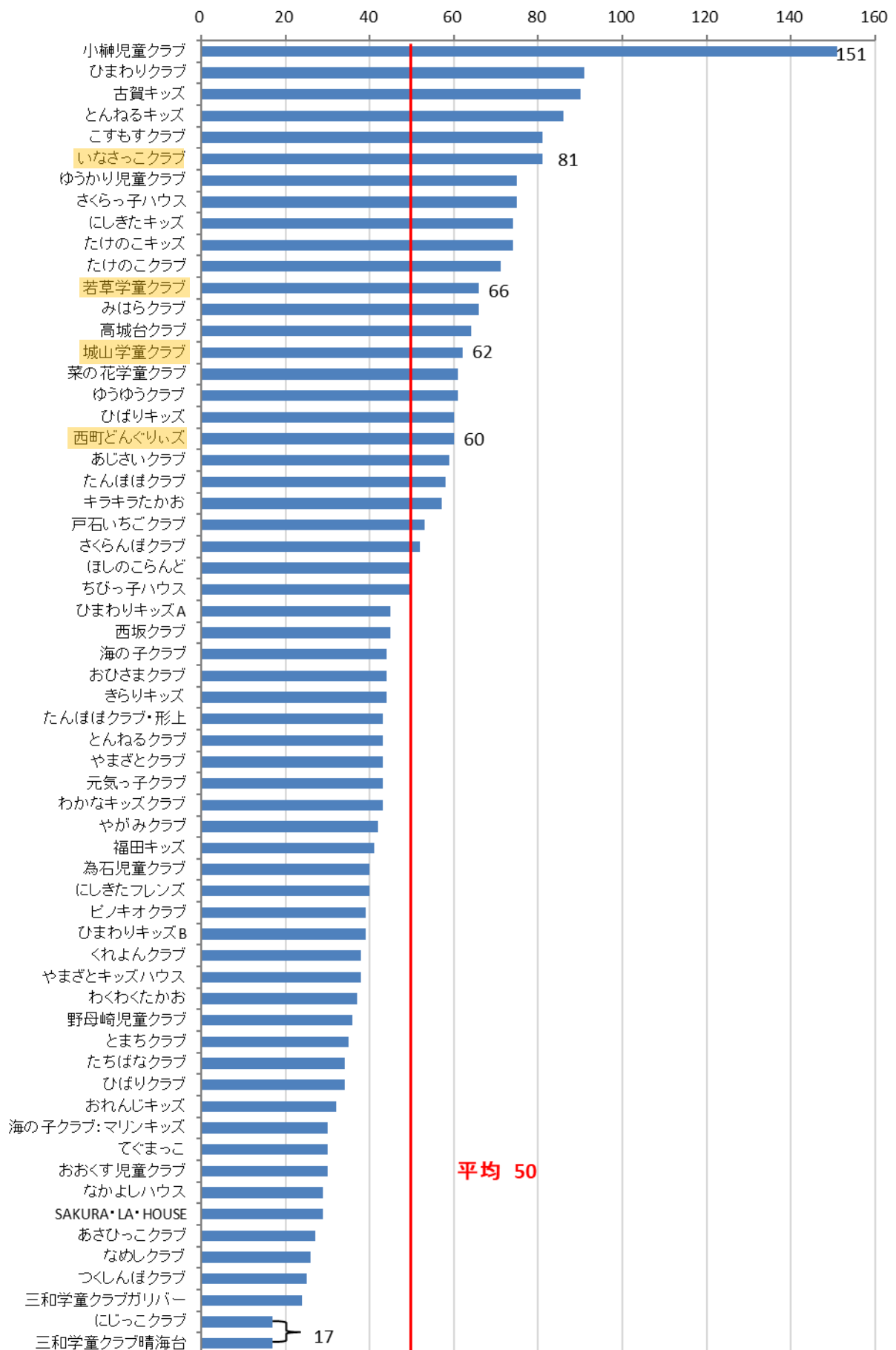
イ 施設のあり方や見直しの方向性

- いなさっこクラブ、城山学童クラブ、及び西町どんぐりいずについては、学校の転用可能教室を活用しています。今後も学校側との管理区分を明確にし、安全性を確保しながら運営していきます。
 - 若草学童クラブが使用している建物（旧図書センター）は、築後 55 年が経過し、老朽化が進んでいます。今後は、耐用年数に合わせた修繕は行いますが、大規模な改修や建替えは行わないこととします。
- 一方、放課後児童クラブの機能は引き続き確保する必要があり、建物が耐用年数を迎えるまでに、民間施設への移転等も含め、機能を確保する方法を運営事業者と協議します。

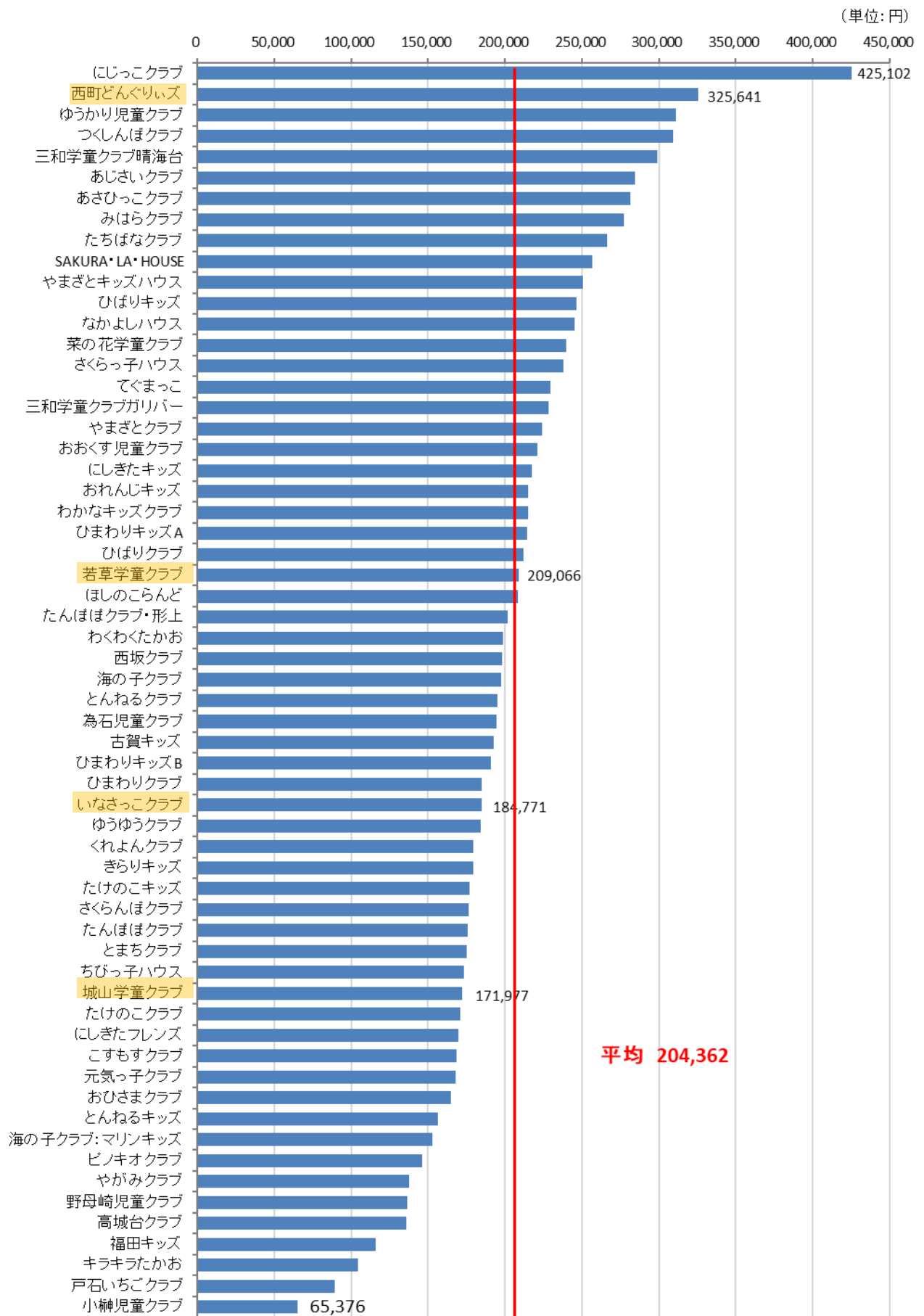
ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030 以降～	
いなさっこクラブ				適正管理を行う
城山学童クラブ				
西町どんぐりいず				
若草学童クラブ				大規模な改修や建替えは行わず、西城山小学校区内に放課後児童クラブとしての機能を確保するための手法を検討する

放課後児童クラブの施設別の月平均登録者数 (H29 年度実績) (単位: 人)



放課後児童クラブの登録者1人当たりの年間コスト (H29 年度実績)




⑨子育て関連施設（緑が丘地区子育て支援センター「ピクニック」）

<p>子育て関連施設の施設配置の基本的な考え方</p>	<p>少子化、核家族化、地域のつながりの希薄化など、家庭や地域の状況が変化してきたことにより、子育てに不安や負担を感じている保護者が増加しています。また、今後の人口減少により、更に状況が変化することが予想されますが、安心して子どもを生み育てることができ、地域や社会に見守られながら子どもたちが健やかに育つことができるよう、子育て支援機能を充実します。</p> <p>そこで、子育ての不安感・負担感を軽減することを目的として、地域の身近な場所で保護者が気軽に相談、情報提供、交流ができる機能を持った子育て支援センターを設置します。当面の目標として、子ども・子育て支援事業計画に基づき、市内を16区域に区分し、利便性を勘案して、各1か所配置します。</p> <p>設置にあたっては、市の既存施設の活用に加え、民間施設も活用しますが、活用できる施設がない場合には、新設について検討します。</p> <p>また、発達障害のある子どもや発達に気になる子どもを育てる保護者の負担軽減を図るため、気軽に交流や相談等ができる発達障害支援に特化した子育て支援センターを市内に配置するとともに、利用者の実態やニーズを踏まえて、より良い施設のあり方及び場所についても検討します。</p>
-----------------------------	--

ア 現状及び課題

緑が丘地区子育て支援センター「ピクニック」（2023年3月_移転済）

	<p>【建築年】1963年</p> <p>【開館時間】10:00～16:00</p> <p>【休館日】日曜日・祝日、年末年始</p> <p>【年間利用者数】9,409人</p> <p>【1日当たり利用者数】32人 ※利用者数は平成29年度実績</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 育児をしている保護者の負担感を軽減するため、いつでも・どこでも・だれでも利用できる「つどいの場」、「相談の場」、「情報提供の場」を提供するために設置されています。 ● 旧図書センターの建物の一部を活用して設置されています。 ● この建物には、西城山交流センターと若草学童クラブが併設されています。
<p>【現状及び課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 現在使用している建物（旧図書センター）は、築55年を経過し老朽化が進んでいます。 ● 利用しやすい場所に立地していますが、駐車場は1台分しかありません。 ● 市民対話では、 「現在の立地場所は利便性がよく、地区外からの利用者も多い。」 「駐車場が少ないので、拡充が必要。」 「淵地区ふれあいセンターのデイサービスセンター退去後の空きスペースに移転できないか。」 	

「安全を考えると、今の古い建物より、淵地区ふれあいセンターに移転したほうがいい。」

「移転したら、ふれあいセンターの図書を子育て支援センターの子どもたちにも読ませられるのでよい。」

「子育て支援センターや放課後児童クラブの機能を一旦、淵地区のふれあいセンター等へ移転し、淵地区ふれあいセンターが老朽化し建替えのタイミングで、旧図書センターの場所に複合施設を整備できたらいい。」

「淵地区ふれあいセンターへの移転は、現在よりも駐車場が広くなって便利になる一方、周辺は階段が多く、バス停からのベビーカーでの移動は遠回りになる。」


という意見が出されました。

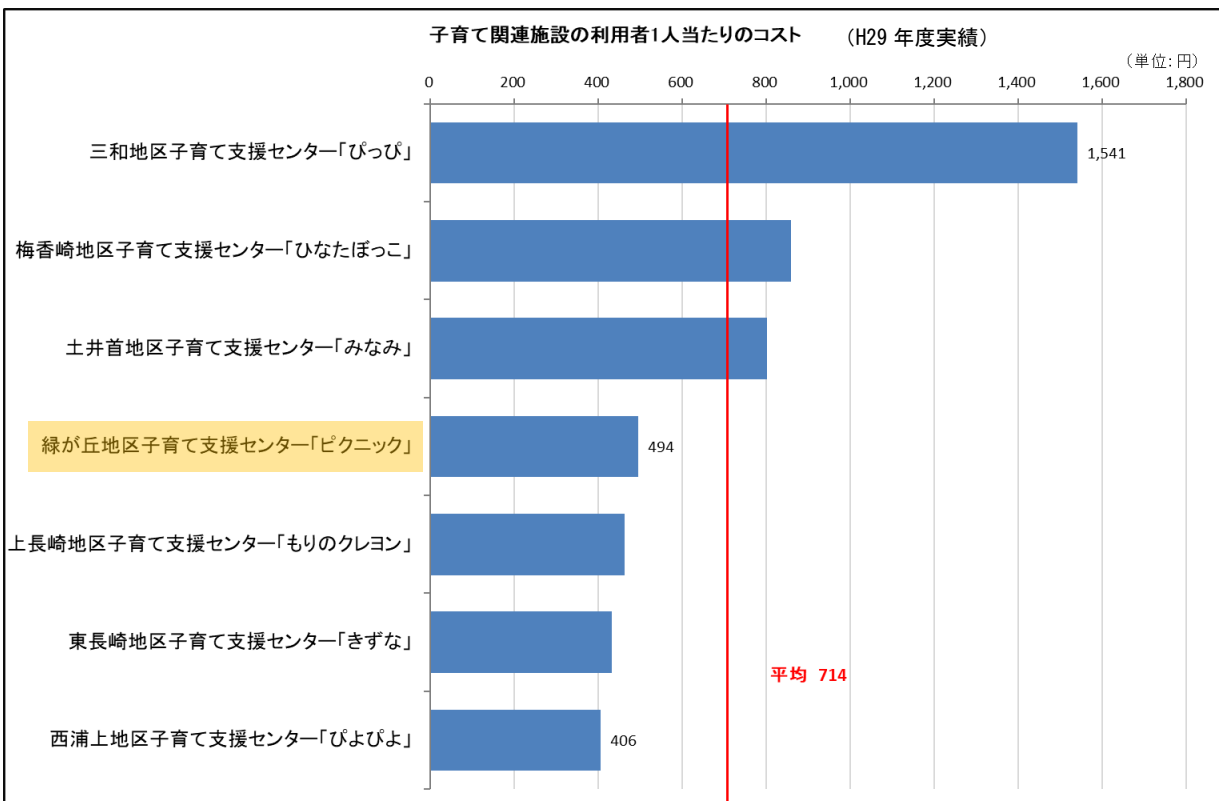
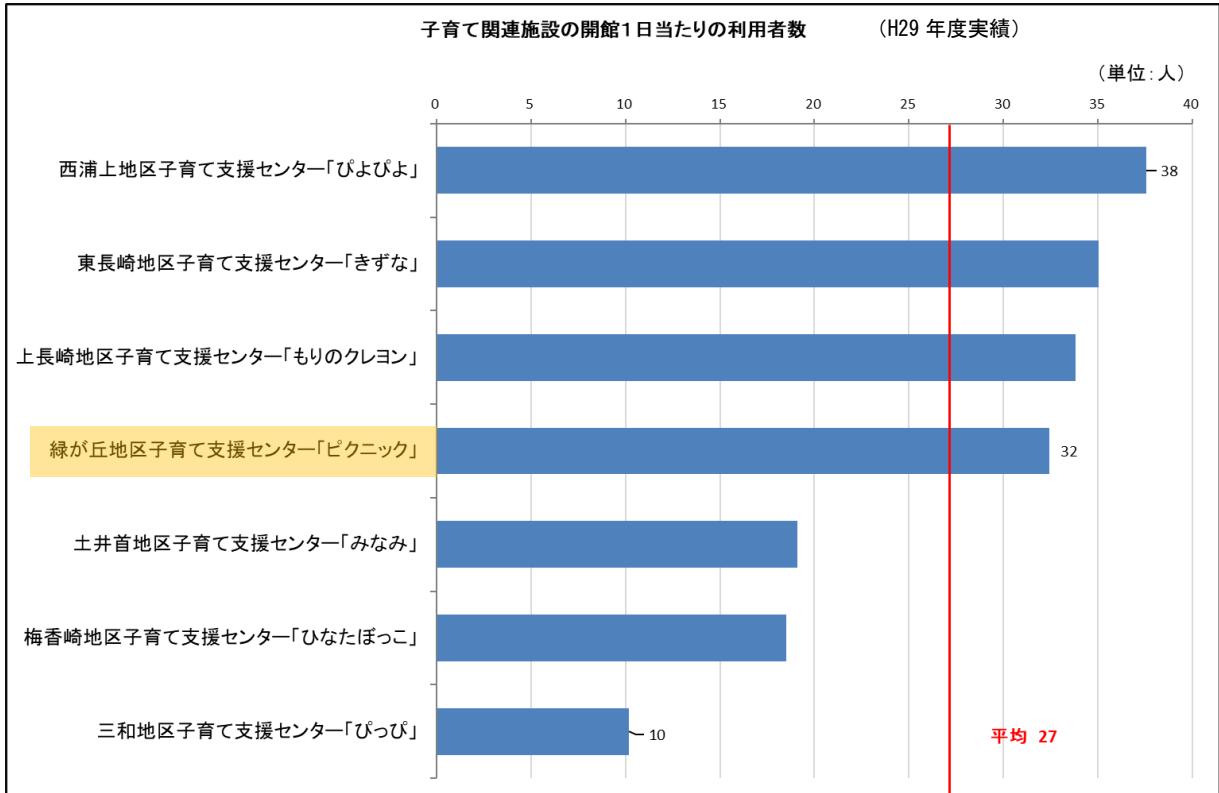
イ 施設のあり方や見直しの方向性

緑が丘地区子育て支援センターを設置している建物（旧図書センター）は、築後 55 年が経過し、老朽化が進んでいます。今後は、耐用年数に合わせた修繕は行いますが、大規模な改修や建替えは行わないこととします。

一方、子育て支援センターの機能は、地区内に引き続き確保する必要があります。建物が耐用年数を迎えるまでに、既存施設の有効活用として緑が丘・淵地区の地理的な中心付近に位置する淵地区ふれあいセンターの余剰スペースへの移転を含め、機能の確保を図ります。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030 以降～	
緑が丘地区子育て支援センター 「ピクニック」				淵地区ふれあいセンターの余剰スペースへの移転を含め、地区内での機能を確保する



(2) 都市基盤施設

①市営住宅（富士見住宅、城栄住宅、青山住宅、清水住宅、狩股住宅、西町住宅、西町第2住宅、中河内住宅）

市営住宅の
施設配置の
基本的な考え方

将来の人口及び世帯数の減少により、市営住宅の需要は低下することが予想されますが、少子高齢化の進展や社会的弱者の多様化等の社会情勢の変化を踏まえ、民間賃貸住宅市場において最低居住水準の住居を確保できない低額所得者や、入居制限を受ける可能性がある高齢者や障害者、子育て世帯等の住宅困窮度の高い世帯などの、真に救済すべき世帯の推計を行い、それらを救済するセーフティネットとしての役割を重点的に担えるよう、住宅の確保を支援することで、市民生活の安定を図ります。

配置については、立地適正化計画によるコンパクトなまちづくりを進めていくことを踏まえ、市内各エリアにおける将来人口や特性を十分に勘案し、県営住宅も含めた公営住宅について、需要と供給のバランスが図れるよう、都心周辺部及び地域拠点の市営住宅は、適正な管理戸数を維持します。

その他の地区については、地域コミュニティが維持できるよう住宅需要や民間の動向を踏まえたうえで管理戸数の縮減を行います。

また、島しょ部については、現在行っている集約や用途廃止、除却等を継続し、管理戸数の縮減を推進します。

ア 現状及び課題

※管理戸数は平成30年4月1日現在

富士見住宅		城栄住宅	
	【建築年】 1970 年 【管理戸数】 40 戸 【概要】 募集停止中		【建築年】 1977 年 【管理戸数】 30 戸
青山住宅		清水住宅	
	【建築年】 1976 年 【管理戸数】 103 戸		【建築年】 1982 年 【管理戸数】 61 戸
狩股住宅		西町住宅	
	【建築年】 1981 年 【管理戸数】 121 戸		【建築年】 1982 年 【管理戸数】 21 戸
西町第2住宅		中河内住宅	
	【建築年】 1983 年 【管理戸数】 74 戸		【建築年】 1987 年 【管理戸数】 106 戸




【現状及び課題】

- 緑が丘・淵地区内の全ての住宅が、築 30 年以上を経過しています。
- 富士見住宅は老朽化が進んでいます。
- 城栄住宅、青山住宅は、大規模な改修を必要とする時期を迎えています。
- 市民対話では、
「入居者が少なくなった公営住宅は見直す必要がある。」
「集約化や高層化して建替え、余った土地は売却などの活用ができるのではないかな。」
「入居率の低いところや古いところ、家賃の回収率の悪いところは集約した方がよい。」
「必要最小限のセーフティーネットとして確保したうえで、縮小を図ってはどうか。」
「(市営住宅を廃止して) 不要となった場合は、解体するとよい。」
「市営住宅を無くせば人口が減り、地域活性化に相反して地域がすたれるのではないかな。」
という意見が出されました。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

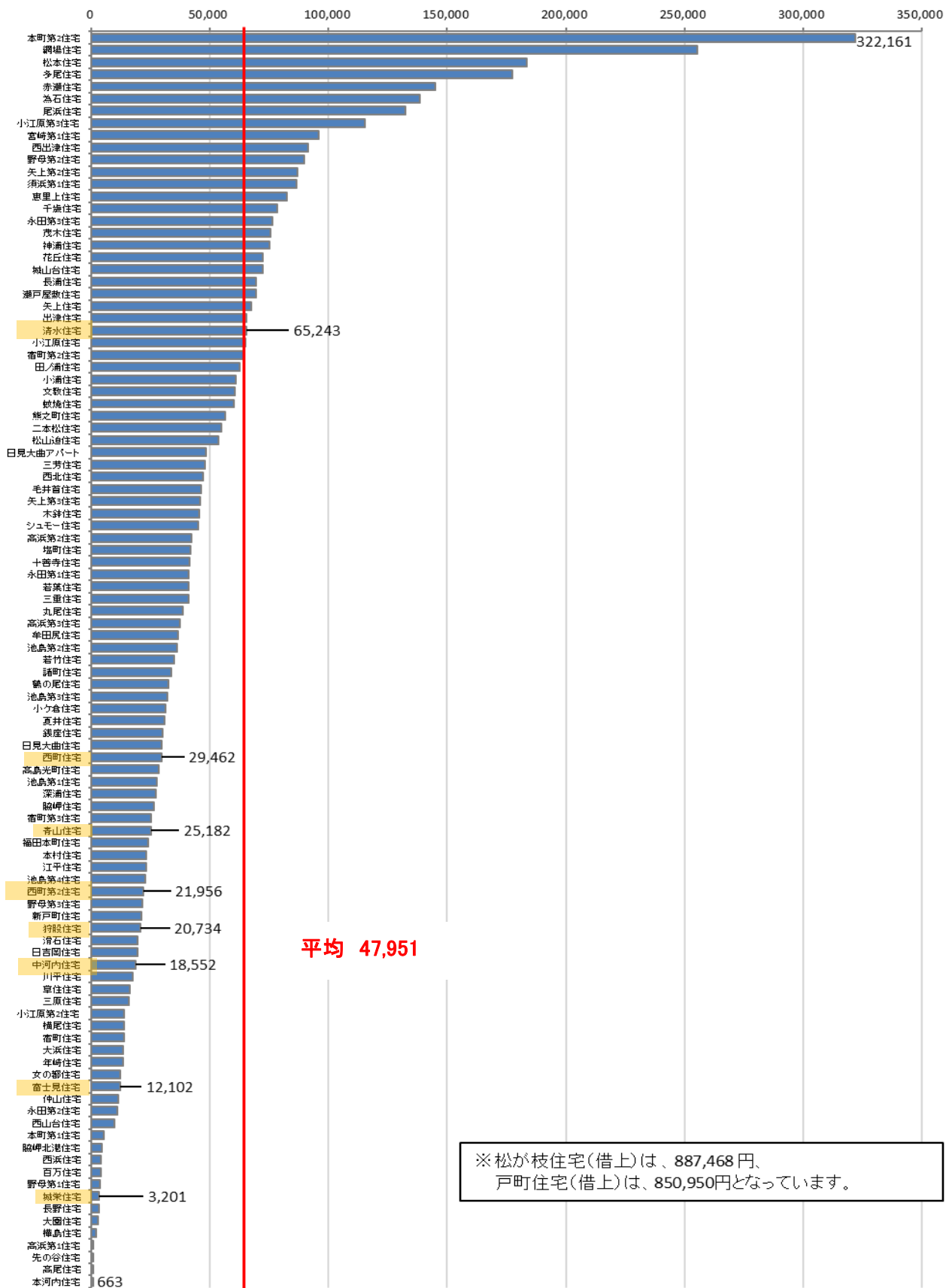
- 富士見住宅については、現在入居されている方の住み替えを行った上で、今後、用途廃止を行う予定です。跡地は民間への売却を含めて、有効活用を図ります。
- 青山住宅については、今後、規模を縮小し建替えを行う予定です。
- その他の住宅については、将来的に建て替える場合は、できるだけ集約化して効率的な維持管理に努めるとともに、敷地の有効活用を図ります。また立地適正化計画によるコンパクトなまちづくりを踏まえた上で、住宅需要や民間の動向を十分勘案し、配置を見直します。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030 以降～	
富士見住宅				用途廃止を行う
青山住宅				縮小建替えを行う
城栄住宅				適正管理を行う 建替える場合は、集約化に努めるとともに、住宅需要や民間の動向を勘案し、配置を見直す
清水住宅				
狩股住宅				
西町住宅				
西町第2住宅				
中河内住宅				

管理戸数1戸当たりの年間コスト (H29 年度実績)

(単位: 円)



②市営駐車場（松山町駐車場、平和公園駐車場）

市営駐車場の施設配置の基本的な考え方	<p>市営駐車場は、大型公共施設や観光施設に隣接して適正に配置し、駐車需要を充足させることで、道路交通の円滑化及び安全で快適な都市環境の形成を図ります。</p> <p>普通車駐車場については、現在、市全体では充足しており、将来的には観光需要によりやや増加が見込まれますが、供給は確保されることから、一般利用者のための市営駐車場の必要性は低くなっていくものと考えます。</p> <p>しかしながら、公共施設等の利用者の利便性確保のために必要であることや、安定した料金収入も見込まれることから、当面は現施設を維持していくとともに、一部の駐車場については、隣接する公共施設の建替えや更新などの環境変化に対応し、附置義務駐車台数を確保することとしますが、必要性がなくなれば廃止します。</p> <p>大型バスの駐車場は、観光繁忙期において満車状態であり、今後も観光需要が増加していくと予想されることから、県市で連携して対応していきます。</p> <p>二輪車等駐車場は、市内中心部において不足しており、今後も同様な状況が継続するものと推測されることから、官民連携して整備を推進していきます。</p>
--------------------	---

ア 現状及び課題

松山町駐車場



【建築年】1997 年

【営業時間】24 時間（地上部）、7：30～22：00（地下部）

【休業日】なし

【年間利用台数】137,880 台

【1 日当たりの利用台数】378 台 ※利用台数は平成 29 年度実績

【概要】

- 周辺のスポーツ施設等（市民プール、ラグビー・サッカー場、テニスコート等）の利用者のほか、通勤者のパークアンドライドに利用されています。
- 駐車台数：地上部…普通車 42 台、バス 10 台
地下部…普通車 246 台

【現状及び課題】

- 松山町駐車場は周辺のスポーツ施設の附置義務駐車場としての役割を担うとともに、通勤者のためのパークアンドライドとして利用されています。

平和公園駐車場



【建築年】1994 年

【営業時間】24 時間（地上部）、7：00～20：00（地下部）

【休業日】なし

【年間利用台数】81,943 台

【1 日当たりの利用台数】225 台 ※利用台数は平成 29 年度実績

【概要】

- 平和公園に隣接する地上部分と公園の地下部分にわたって設けられています。
- 駐車台数：地上部…普通車 52 台
地下部…普通車 40 台、バス 32 台、二輪車 15 台

【現状及び課題】

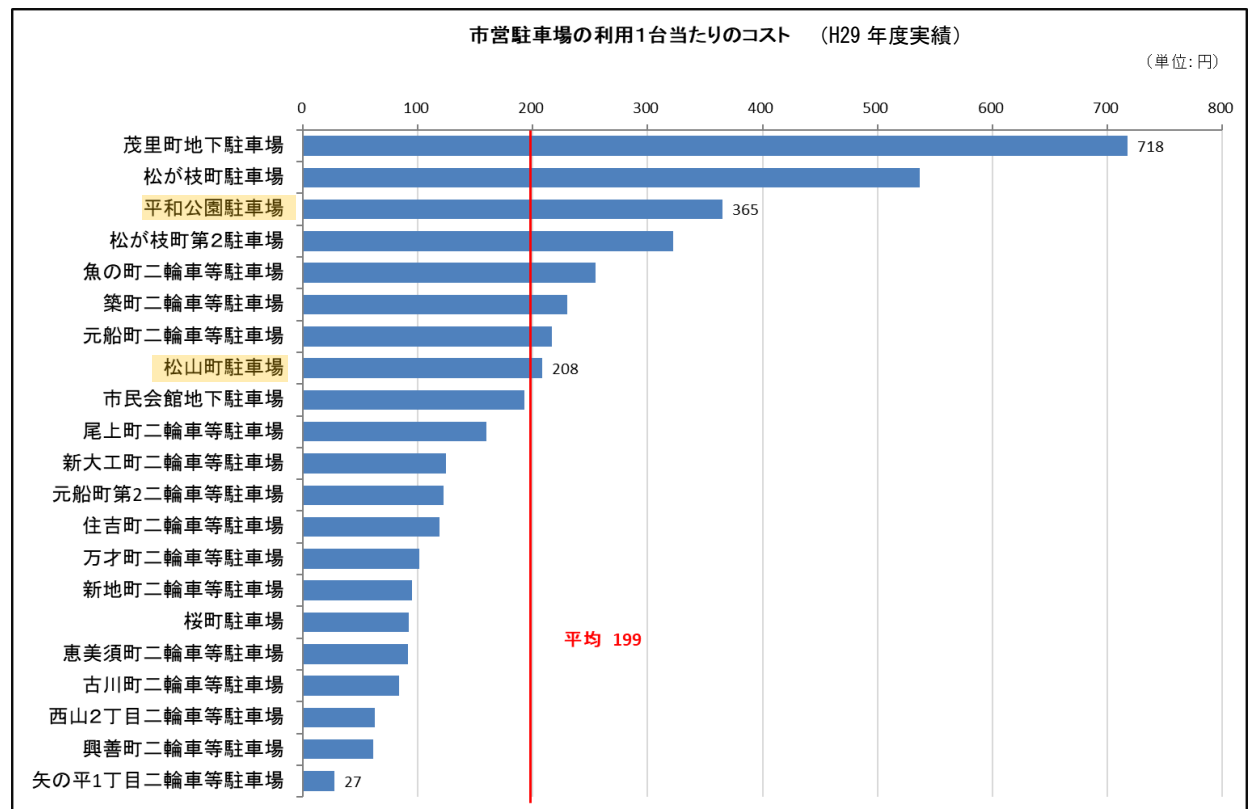
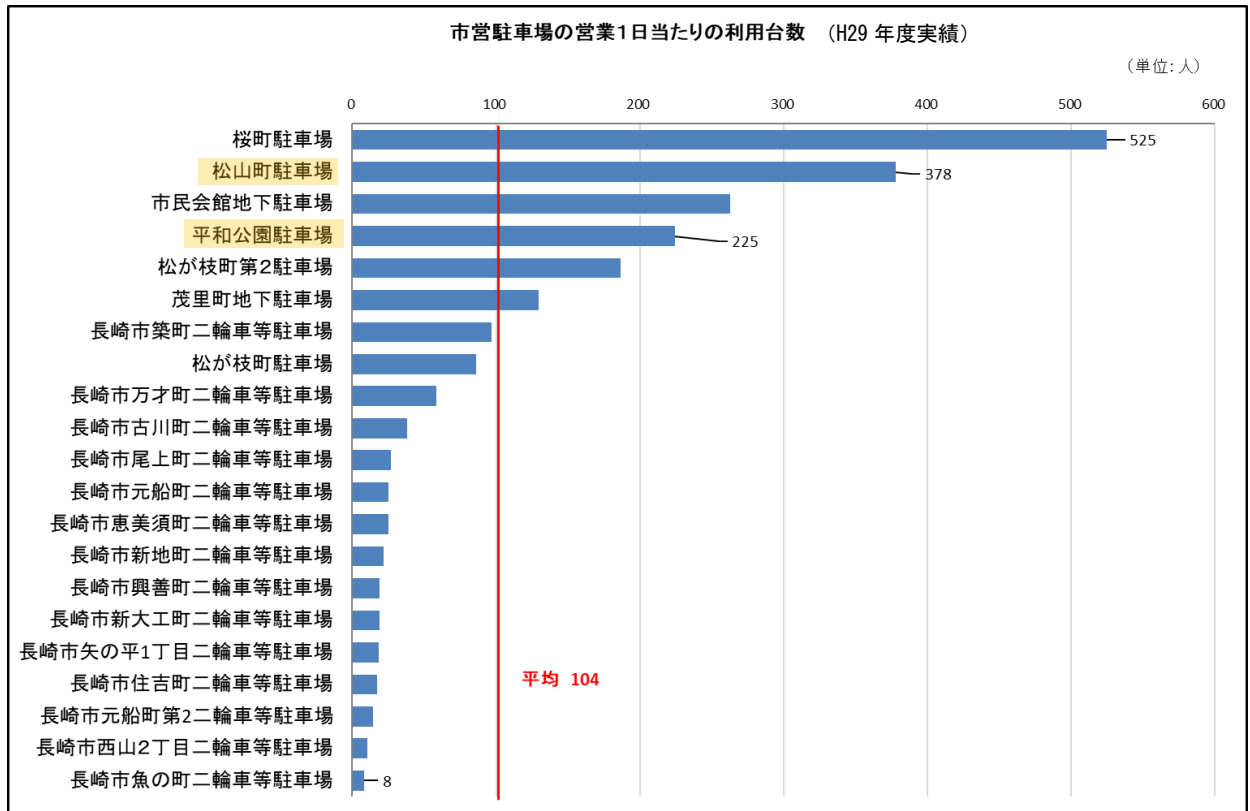
- 市外からも多くの方々が訪れる平和公園の駐車場として、広く利用されています。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

パークアンドライドの機能維持による周辺交通の円滑化や、多くの観光客が訪れる平和公園・スポーツ施設等の利用者の利便性確保のために、今後も現在のサービスを維持し、施設を適正に管理します。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030 以降～	
松山町駐車場				適正管理を行う
平和公園駐車場				



(3) 公園施設

①公園施設（総合公園、近隣公園、街区公園）

公園施設の 施設配置の 基本的な考え方

公園については、防災・避難等災害に対応できる機能を確保し、バリアフリー化など機能の向上や、複合遊具等を活用した魅力的な子どもの遊び場の創出、地域イベント等の開催が可能な広場等の整備による地域コミュニティの空間の創出、スポーツ施設等の利用環境の充実、健康寿命を延ばす健康づくりのための機能の導入等、多様なニーズに対応した公園づくりを推進します。

また、市内における都市公園の市民1人当たりの標準の敷地面積及び、市街地の都市公園の当該市街地の市民1人当たりの標準の敷地面積はそれぞれ次のとおりとし、都市公園の種類や目的及び誘致距離を勘案し配置の均衡を図ります。

（1人当たりの敷地面積）

- ・本市内の都市公園の市民1人当たりの敷地面積の標準 10 m²以上
- ・市街地の都市公園の当該市街地の市民1人当たりの敷地面積の標準 5 m²以上

（公園種別と標準面積）

公園種別	標準面積
街区公園	0.1ha（1,000 m ² ）
近隣公園	2.0ha（20,000 m ² ）
地区公園	4.0ha（40,000 m ² ）
総合公園	利用目的に応じて適宜
運動公園	利用目的に応じて適宜

（1）総合公園

都市基幹公園として、都市住民全般の休息、観賞、散歩、遊戯、運動等総合的な利用に供するため必要な施設です。また、地区公園の配置を補完する役割も有しています。

（2）運動公園

都市基幹公園として、都市住民全般の主として運動の用に供するため必要な施設です。スポーツに特化したサービスの拠点として必要です。

（3）地区公園

住区基幹公園として、主として徒歩圏内に居住する者の利用に供するため必要な施設です。住民のレクリエーション等の拠点として配置します。

（4）近隣公園

住区基幹公園として、主として近隣に居住する者の利用に供するため必要な施設です。日常における憩いの場や避難場所等防災の拠点として配置します。

（5）街区公園（遊園を含む）

住区基幹公園として、主として街区内に居住する者の利用に供するため必要な施設です。

将来人口の推移及び立地適正化計画における居住誘導区域を踏まえなが

ら、整備面積・配置・機能が過大である地域においては廃止し、不足している地域においては、統廃合や新設により適切な公園整備を推進します。

ア 現状及び課題

稲佐山公園、平和公園【総合公園】

都市住民全般の休息、鑑賞、散歩、遊戯、運動等、総合的な利用に供することを目的とする公園です。

稲佐近隣公園【近隣公園】

近隣に居住する住民の日常における憩いの場や避難場所等、防災の拠点として利用されています。

【街区公園（34 か所）】

街区内に居住する住民の方に利用されています。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

総合公園については、市内 10 か所配置されており、それぞれの公園において地形や特性を活かし、各公園で機能分担を図りながら住民の総合的な利用に供していることから、緑が丘・淵地区においても現状の 2 か所を維持します。

稲佐山公園は、都市景観の保全やレクリエーションの拠点として現状の施設を維持します。

平和公園は、被爆の実相を訴えるとともに、世界平和と文化交流のための公園として、現状の施設を維持します。

稲佐近隣公園は、近隣に居住する住民の日常における憩いの場や避難場所等防災の拠点として現状の施設を維持します。

街区公園については、将来人口の推移を踏まえながら、統廃合や新設により適切な公園整備を推進します。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030 以降～	
稲佐山公園				適正管理を行う
平和公園				
稲佐近隣公園				
街区公園（34 か所）				整備面積・配置・機能の状況を見ながら、統廃合や新設を行う


(4) その他の施設

①遊休資産（淵地区ふれあいセンターの余剰スペース）

遊休資産の 活用の考え方	行政目的を終えた遊休資産については、他の行政サービスでの活用を図るほか、積極的な売却や貸し付けに取り組むなど、資産の有効活用に努めます。
-----------------	--

ア 現状及び課題


淵地区ふれあいセンターの余剰スペース（旧老人デイサービスセンター部分） （2021 年 10 月からふれあいセンター（規模拡大）として活用済）

	<p>【建築年】1996 年</p> <p>【延床面積】397 m²</p> <p>【耐震性】あり</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 淵地区ふれあいセンターの 1 階部分です。 ● 当初、市が公設で老人デイサービス事業を実施するため整備しましたが、民間の介護事業所が充足してきたため公設での事業を廃止したことにより、資産の有効活用として、民間事業者に貸し付けを行っていました。
<p>【現状及び課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● デイサービス事業を実施する社会福祉法人への貸し付けは、平成 30 年 12 月 31 日で終了しました。 ● 建築後 22 年でまだ耐用年数があり、耐震化やバリアフリー化もなされていることから、他の有効な活用策を検討する必要があります。 ● 市民対話では、 「建物が老朽化している緑が丘地区子育て支援センターの移転先として活用してはどうか。」 「1 階の余剰スペースのすべてが、子育て支援センターのスペースとして必要なのか。」 「子育て支援センターの移転だけではなく、地域コミュニティの拠点としての活用など、さまざまな機能の中から取り込む機能を検討するべきではないか。」 「駐車場が縦列駐車なので、子育て支援センターと複合化すると、利用しにくいのでは。」 という意見が出されました。 	

イ 施設のあり方や見直しの方向性

淵地区ふれあいセンターの余剰スペース（旧老人デイサービスセンター）の貸付終了後は、「緑が丘・淵地区」の中心付近に位置していることから、建物が老朽化している緑が丘地区子育て支援センターの移転先を含めた活用を検討します。











ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030 以降～	
淵地区ふれあいセンターの 余剰スペース (旧老人デイサービスセンター)				貸付終了後、緑が丘地区子育て支援センターの移転先としての活用を含め検討する

6 地区計画のロードマップ（再掲）

地区計画を着実に実施していくため、施設ごとの将来のあり方について、今後の再配置の推進工程（ロードマップ）を示したものです。

再配置の実施時期については、建物の状況（建築年、安全性など）や施設の稼働率、提供している行政サービス、さらには施設が設置された経緯や市の施策との整合性などを考慮し、区分します。

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
緑が丘地区子育て支援センター 「ピクニック」				淵地区ふれあいセンターの余剰スペースへの移転を含め、地区内での機能を確保する
淵地区ふれあいセンターの 余剰スペース (旧老人デイサービスセンター)				貸付終了後、緑が丘地区子育て支援センターの移転先としての活用を含め検討する
西城山交流センター				大規模な改修や建替えは行わず、区域内に地域活動の拠点としての機能を確保するための手法を検討する
若草学童クラブ				大規模な改修や建替えは行わず、西城山小学校区内に放課後児童クラブとしての機能を確保するための手法を検討する
富士見住宅				用途廃止を行う
青山住宅				縮小建替えを行う
もみじ谷葬斎場				現施設を適正に管理しながら、建替えについて検討する
城栄住宅 清水住宅 狩股住宅 西町住宅 西町第2住宅 中河内住宅				適正管理を行う 建替える場合は、集約化に努めるとともに、住宅需要や民間の動向を勘案し、配置を見直す
街区公園（34か所）				整備面積・配置・機能の状況を見ながら、統廃合や新設を行う
老人憩の家つつじ荘				利用者数や設備の状況・耐用年数を踏まえ、高齢者専用施設としては適切な時期に廃止する

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
市民総合プール 市営陸上競技場 市営庭球場 市営ソフトボール場 市営弓道場				適正管理を行う 長崎南北幹線道路整備計画の状況を見極めながら、施設のあり方を検討する
市営ラグビー・サッカー場 市民アーチェリー場				適正管理を行う
科学館				
長崎ロープウェイ				
長崎原爆遺跡旧城山国民学校校舎				
淵地区ふれあいセンター 緑が丘地区ふれあいセンター 稲佐地域コミュニティ消防センター				
稲佐小学校 淵中学校				
いなさっこクラブ 城山学童クラブ 西町どんぐりいず				
松山町駐車場 平和公園駐車場				
稲佐山公園 平和公園 稲佐近隣公園				
城山小学校 西城山小学校 西町小学校 緑が丘中学校				現施設を適正管理し、計画的に改修、建替えを行う

参考 市民対話の実施

人口が減少し少子高齢化が進んでも、長崎が暮らしやすいまちであり続けられるよう、公共施設のあり方・使い方について、地域住民と行政が一緒に考える場として、「市民対話」を実施しました。

将来の長崎市の姿を見据えた行政サービスのあり方と、それを提供する拠点となる公共施設のあり方について、市の基本的な考え方をお話しするとともに、地域に必要な機能（行政サービス）をこれからも維持しながら、地域の賑わいや活力あるまちづくりにつながる施設の集約化、多世代交流の促進を生み出す複合化・多機能化など、公共施設の見直しについてさまざまな意見をいただきました。

緑が丘・淵地区の市民対話の開催状況は、以下のとおりです。

<第1回>

- (1) 開催日 平成30年1月28日（日）14：00～16：00
- (2) 会場 淵地区ふれあいセンター
- (3) 内容
 - 公共施設の現状や見直しの必要性について
 - 緑が丘・淵地区の公共施設の利用状況の確認
- (4) 参加者数 34人

<第2回>

- (1) 開催日 平成30年2月17日（土）14：00～16：00
- (2) 会場 長崎県営野球場
- (3) 内容
 - 公共施設の配置の考え方と見直し案について
 - 見直し案に対する意見交換
- (4) 参加者数 27人

<第3回>

- (1) 開催日 平成30年3月17日（土）14：00～16：00
- (2) 会場 長崎県営野球場
- (3) 内容
 - 第2回までの意見に対する検討結果について
 - 意見交換
- (4) 参加者数 20人

<第4回>

- (1) 開催日 平成30年4月14日（土）14：00～16：00
- (2) 会場 淵地区ふれあいセンター
- (3) 内容
 - 第3回までの意見に対する検討結果について
 - 意見交換／対話のまとめ
- (4) 参加者数 16人

◆ 緑が丘・淵地区の市民対話の詳細については、長崎市のホームページでご覧いただけます。

「緑が丘・淵地区の公共施設の将来のあり方を考える市民対話」

(URL : <http://www.city.nagasaki.lg.jp/syokai/792000/792109/p031110.html>)

長崎市公共施設マネジメント
緑が丘・淵地区計画

令和3年(2021 年)5月
令和7年(2025年)12月改訂
長崎市

【問い合わせ先】

長崎市財務部資産経営課

電話:095-829-1127

FAX:095-829-1248

Email: shisankeiei@city.nagasaki.lg.jp